

平成20年度版  
**京都市の学校評価システム**

平成19年度実施状況

——「自らを振り返り」「互いに高め合う」——

平成20年11月

京都市教育委員会

# 目 次

## I 京都市の学校評価システム

1	京都市の学校評価の考え方	1
2	平成19年度の取組概要	3
3	平成19年度学校評価の実施状況	3
4	学校評価システムの成果と課題	10
5	学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会	12

## II 学校での取組事例

1	京都市立伏見板橋小学校 ～“私たちの学校”づくりを目指して～	15
2	京都市立下鴨中学校 ～学校改善を目指した学校評価～	22
3	京都市立北総合支援学校 ～『地域化』を目指した学校評価～	32

## I 京都市の学校評価システム

# 1 京都市の学校評価の考え方 ～キーワードは「自らを振り返り」、「互いに高めあう」～

学校教育に寄せられる市民の期待に応え、その信頼をより確かなものにするためには、先ず教師の指導力、学校の教育力を高めなければなりません。同時に、学校と家庭・地域が手を携え、市民ぐるみ、地域ぐるみの教育をさらに推進することが必要となります。

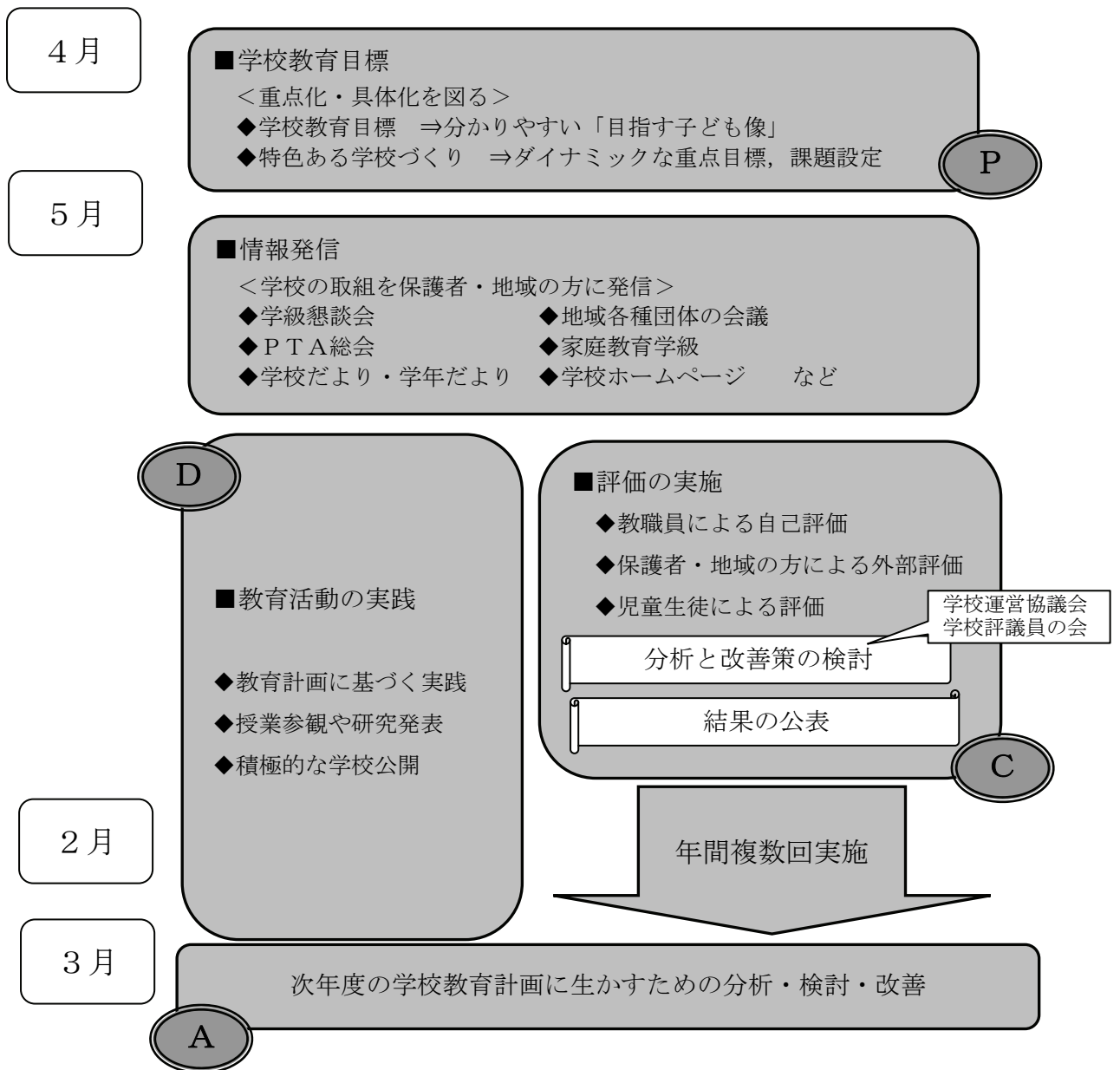
学校評価を通じて、学校と家庭・地域が足りないところを責任転嫁したり批判しあうのではなく、子どもを共に育む当事者として、自らを振り返り、互いに高めあう信頼関係を構築することを目指します。学校と家庭・地域が子どもの情報や課題を共有し、解決に向けた行動、さらには評価の共有にまで高めることが重要なのです。

京都市では、全国で唯一、自己評価・外部評価を全校で実施し、公表しています。今後もより一層、学校・家庭・地域の絆となるような学校評価の取組を進めてまいります。

## 【学校評価システムフロー図～京都市教育委員会作成「学校評価ガイドライン」より～】



【学校での1年間の流れ（サンプル）】



【参考】自己評価・外部評価の実施・公表率（平成18年度実績）

（平成20年5月26日公表の文部科学省調査より）

	自己評価		外部評価	
	実施率	公表率	実施率	公表率
全国平均	98.0%	45.2%	88.9%	38.7%
京都市	100%	100%	100%	100%

## 2 平成19年度の取組概要

平成19年度においては、これまでの取組の上にたって、学校評価の一層の充実を目指して、特に以下の3点を重点課題とした。

- (1) 「自己評価」「外部評価」「児童生徒による評価」を前期・後期に1回以上（年間2回以上）実施し、公表することとし、前期の取組のチェックを後期の教育実践に反映させる。
- (2) 評価結果の公表を充実させることとし、既に全校で実施している「学校だより等」での公表に加え、学校ホームページ上でより広く公表し、説明責任を果たす。
- (3) 「学校運営協議会」又は「学校評議員の一堂に会する場」に評価結果を示すこととし、客観的な立場からの意見を踏まえて、改善策を検討・公表する。

なお、文部科学省から平成18年度、19年度の2箇年にわたり「義務教育の質の保証に資する学校評価システム構築事業」の委嘱を受け、実践協力校12校を中心に、学校評価に関する実践研究及び情報発信を行った。

## 3 平成19年度学校評価の実施状況

### (1) 「自己評価」「外部評価」「児童生徒による評価」の実施回数

#### 【小学校】（179校）

実施回数	1回	2回	3回	4回	5回	6回以上
自己評価	0	147	26	5	0	1
外部評価	0	142	26	7	1	2
児童による評価	0	166	12	1	0	0

#### 【中学校】（72校）

実施回数	1回	2回	3回	4回	5回	6回以上
自己評価	0	68	4	0	0	0
外部評価	0	57	11	2	0	1
生徒による評価	0	68	2	2	0	0

小中学校とも、年間2回以上の学校評価を実施している。実施時期としては、2月が最も多く、次いで7月、9月が多い。また、外部評価は、学校行事等の機会を捉え実施される傾向にあり、回数も増えている。

## (2) 評価結果の学校ホームページでの公表

全小中学校が、学校ホームページで、学校評価の年間計画及び評価結果を公表した。内容は、学校評価を特集した「学校だより地域版」を掲載した学校と、ホームページ独自の構成で掲載した学校とがある。

## (3) 学校運営協議会、学校評議員と学校評価

全小中学校で、「学校運営協議会」又は「学校評議員が一堂に会する場」で学校評価の結果と改善策を説明し、意見をいただいております。学校運営協議会委員又は学校評議員の日ごろの思いが、学校評価結果と照らし合わされることによって、具体的な改善策に結びついている。

また、学校運営協議会設置校では、評価項目の検討から分析まで学校運営協議会が主体的に関わっている場合も多い。学校評価の一連の流れに学校運営協議会が関わることにより、学校運営の当事者としての意識が強くなってきている。

## (4) 学校評価の評価項目について

京都市では、学校評価項目は各学校の目標や課題に応じて、項目を重点化・焦点化することとしており、各校では、教育委員会が作成した、学校評価ガイドラインに基づき、「自己評価」「外部評価」「児童生徒による評価」の評価項目を設定している。

- ① 自己評価においては、小学校・中学校とも「教育目標」、「家庭・地域との連携」、「授業」、「生徒指導」、「人権教育」の項目が多く、外部評価の項目も同様である。これらの項目については、教職員と保護者・地域との意識の差異を基にした分析に活用されている。小学校と中学校の間で実施率に20ポイント以上の大きな開きが見られる項目は、「進路指導」、「部活動」、「特別活動」、「予算執行」、「総合育成支援教育」、「年間計画」、「学校行事」、「教育課程」、「文書管理」、「道徳教育」、「施設設備」の11項目であり、いずれも中学校の実施率が高い。
- ② 外部評価においては、小学校・中学校で実施率の開きが大きい項目は、「部活動」、「教育課程」、「進路指導」、「学校行事」、「年間計画」であり、いずれも中学校での実施率が高い。また、20ポイント以上の開きはないが、中学校よりも小学校での実施率が高い項目は、「人権教育」、「学校図書館」、「保健・衛生」である。
- ③ 児童生徒による評価では、「部活動」、「学校行事」、「教材」、「進路指導」、「施設・設備」の項目は中学校での実施率が高く、「教育目標」、「人権教育」は小学校での実施率が高い。

- ④ 評価項目を18年度と19年度で比較してみると、小学校では、自己評価、外部評価とも、「家庭・地域との連携」「情報公開・発信」、「学校安全」、「人権教育」、「教育課程」、「教育目標」が19年度の実施率が高く、中学校では、自己評価、外部評価とも「家庭・地域との連携」、「人権教育」、「教育課程」、「教育目標」が19年度の実施率が高い結果となった。とりわけ、「家庭・地域との連携」の項目が自己評価・外部評価ともに増えたことは、本市のねらいとする地域に開かれた学校の浸透度を測る目安ともなるもので、望ましい傾向である。

学校評価システムを全校実施して5年が経過する中で、経年変化による分析が行われたり、学校評価のマンネリ化を防ぐために評価項目の見直しが進められている学校もある。次年度以降、学校評価システムのさらなる改良に取り組んでいく。

## (5) 集計と分析

評価アンケートの集計に多大な時間と労力を要することのないよう、平成19年度から、パソコン上でマークシート方式のアンケートを作成し、集計ができるソフトウェアである「SQS※」を全市で活用することとした。

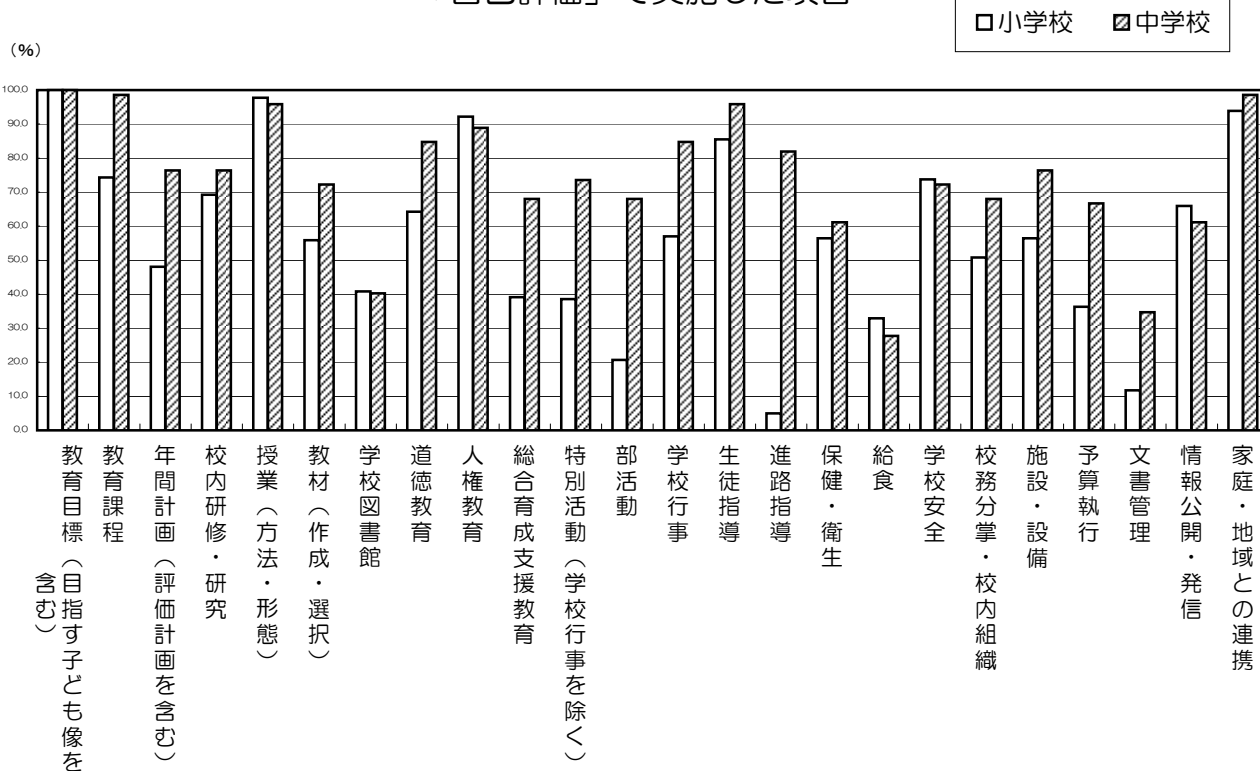
このシステムの活用により、集計作業の大幅な省力化を図ることができるとともに、データをより詳細な分析に生かすことが期待される。

なお、平成19年12月、SQSの利用に必要なドキュメントスキャナを全校園に配置するとともに、基本操作のマニュアル作成及び研修を行い、SQSを利用できる環境を整備している。

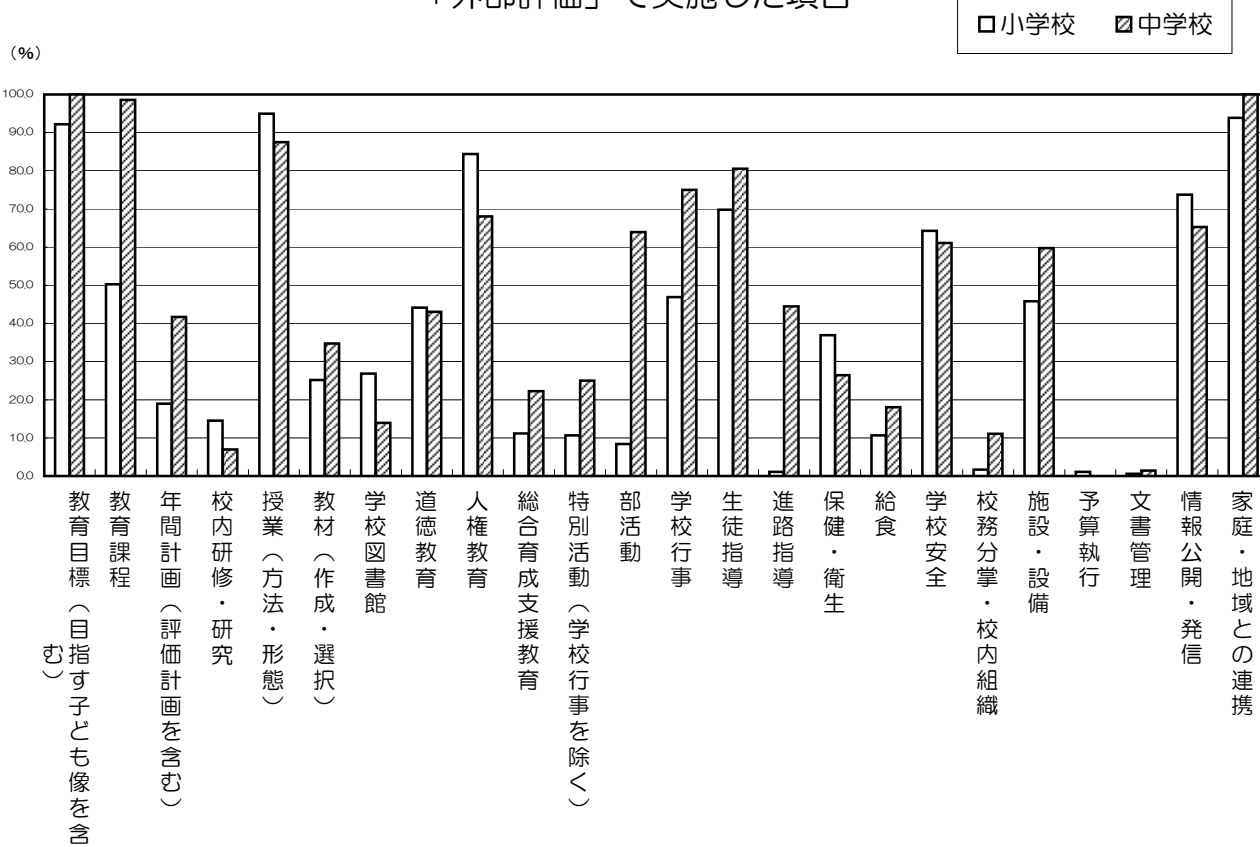
※SQS・・・慶應義塾大学 金子郁容研究室で開発された無償のソフトウェア。普通紙でマークシート方式のアンケートが作成でき、回答をスキャナで画像化することにより、通常のパソコンで集計処理ができるシステム。1人あたり20問のアンケート100人分なら5分未満で集計が可能。



### 「自己評価」で実施した項目

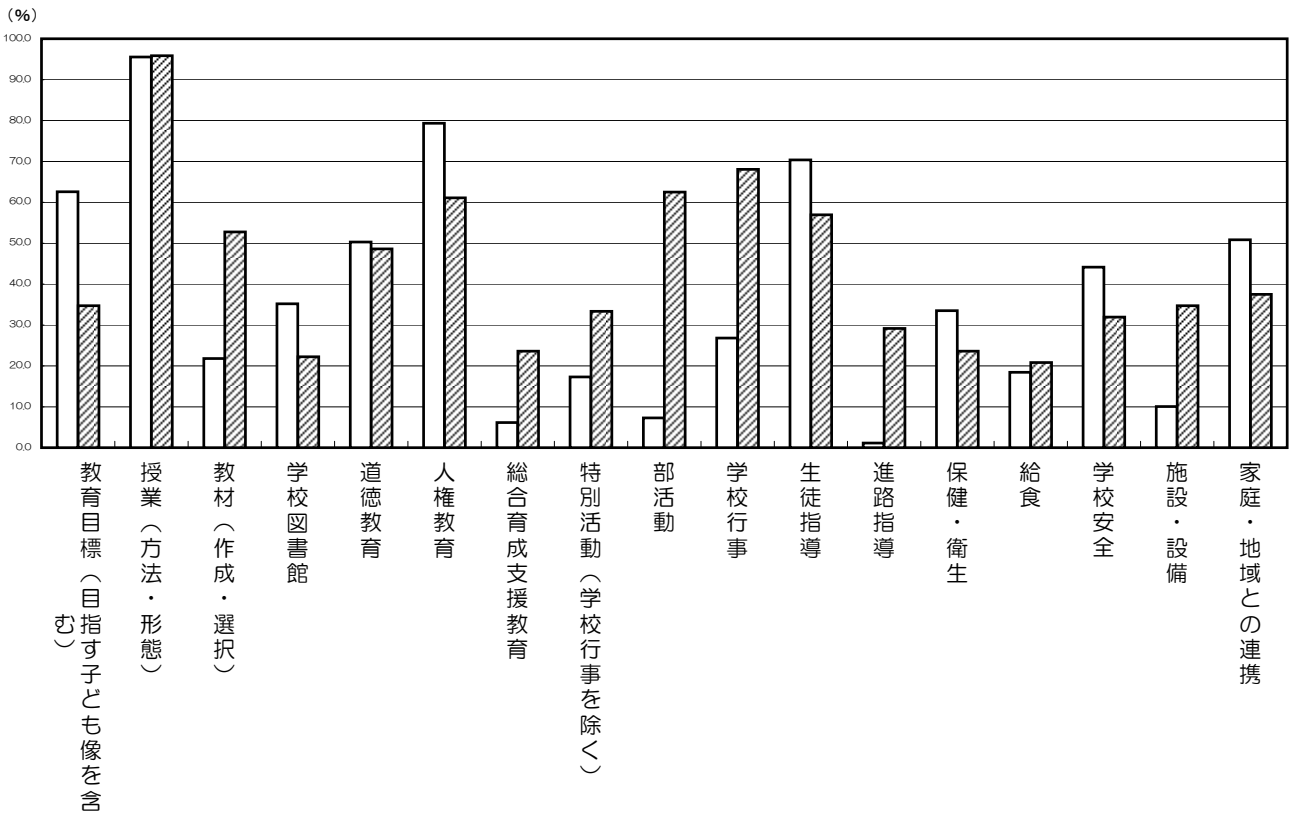


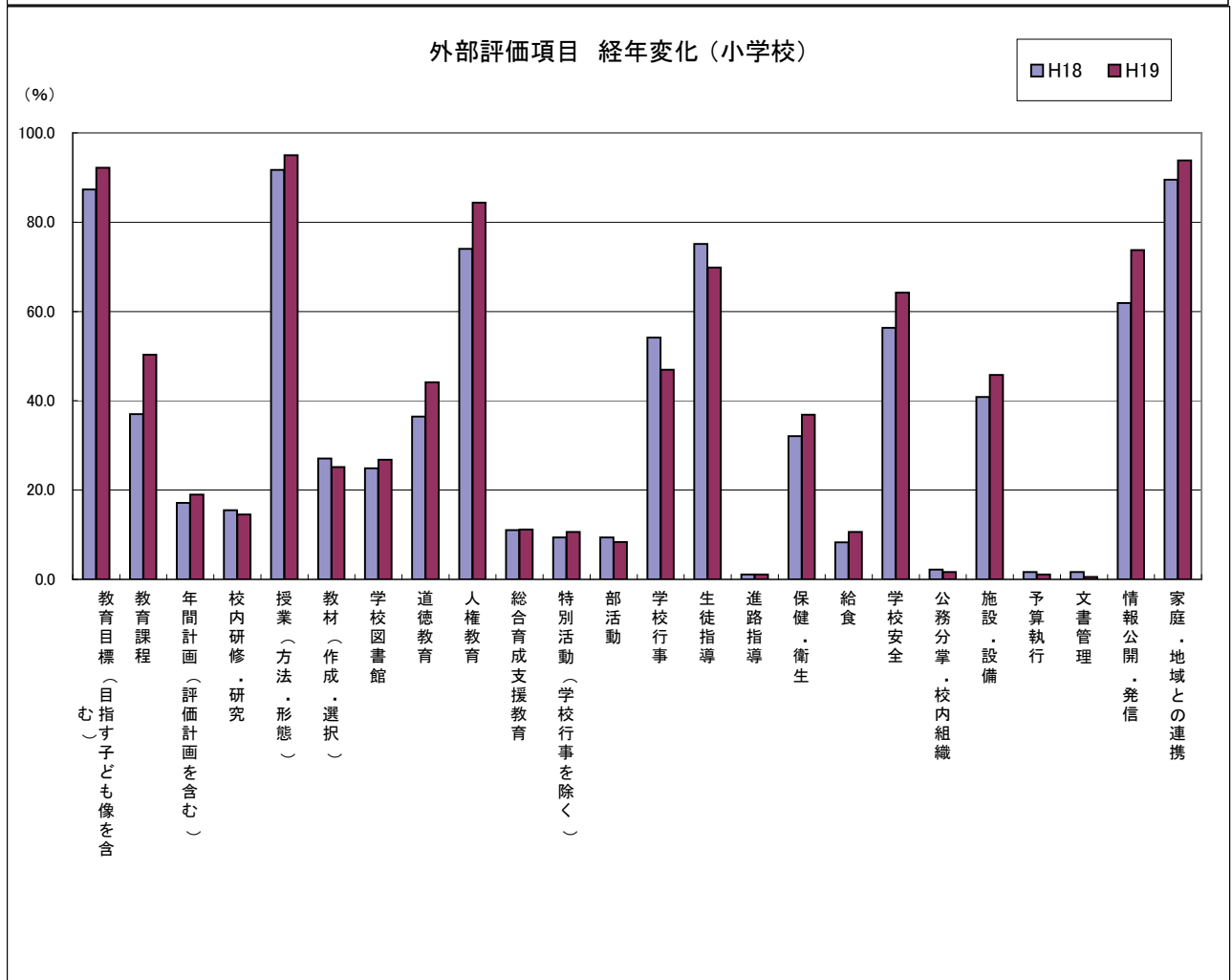
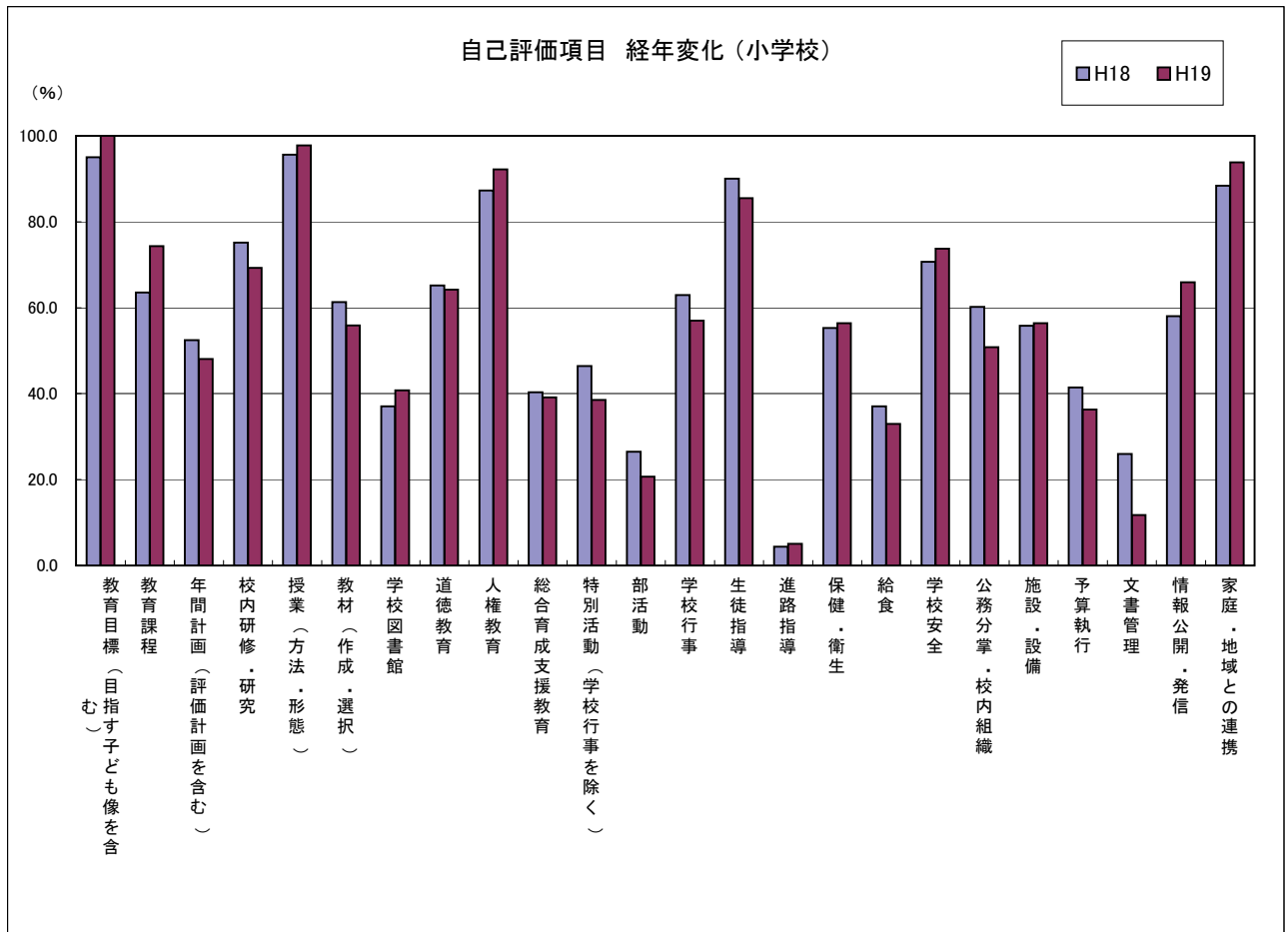
### 「外部評価」で実施した項目



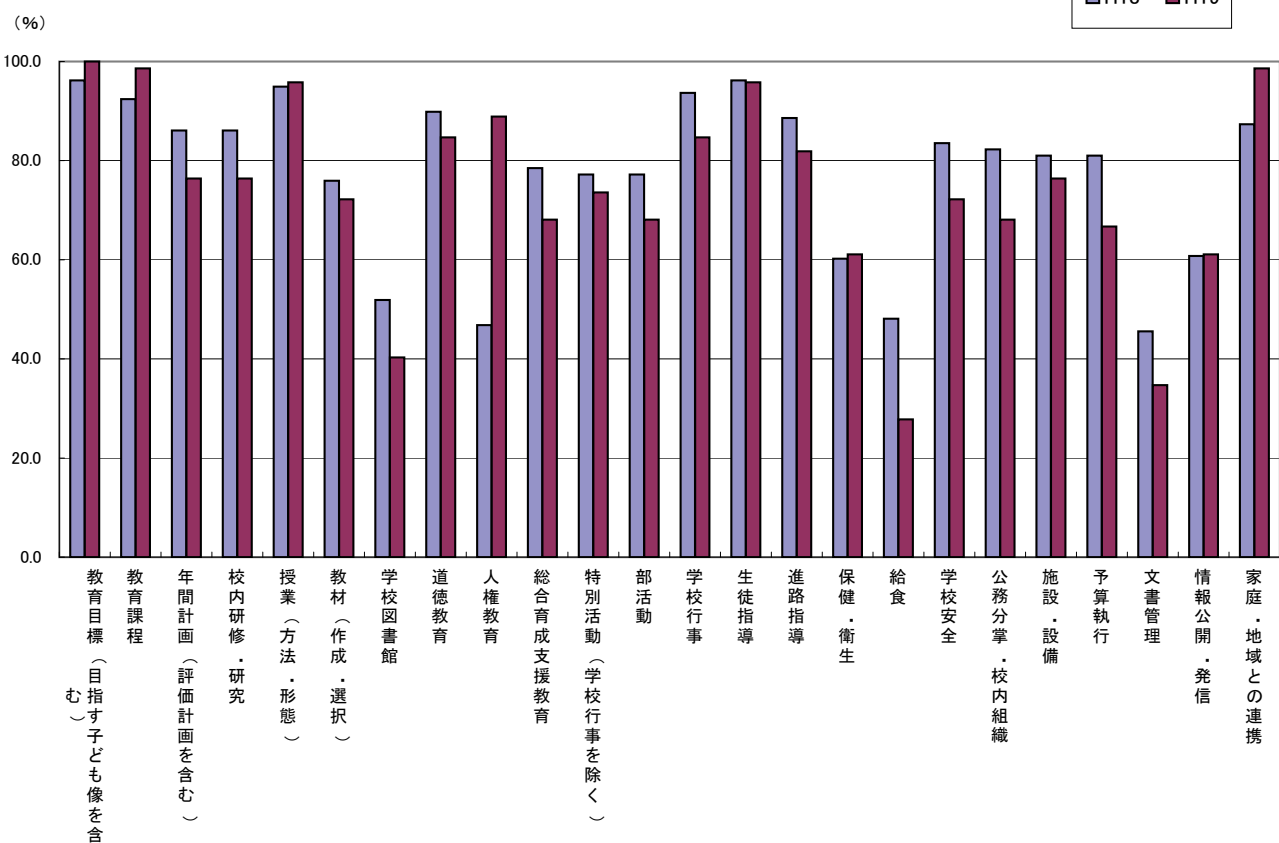
# 「児童生徒による評価」で実施した項目

□ 小学校    ▨ 中学校

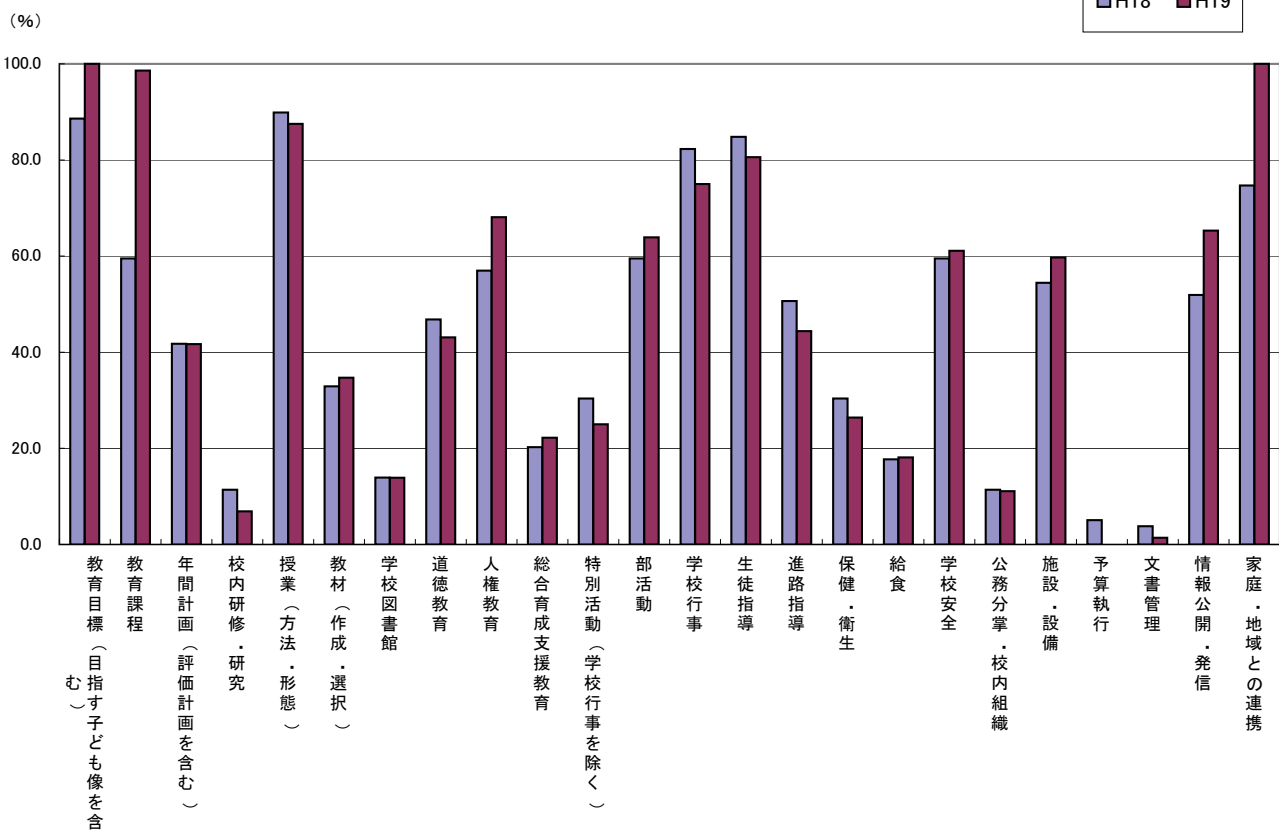




自己評価項目 経年変化（中学校）



外部評価項目 経年変化（中学校）



## 4 学校評価システムの成果と課題

### (1) 成果

#### ① 評価項目の設定に関して

- 学校と学校運営協議会が協働で評価項目を検討していくことで、それぞれの立場でPDCAサイクルを意識できた。
- 評価項目を精選することにより、課題意識が明確になった。

#### ② 分析に関して

- 自己評価と外部評価で共通項目を設けたことで、学校と保護者の意識のずれが明らかになり、課題が明確になった。
- 経年比較を行うことにより、改善の効果やさらなる改善点が明らかになった。
- 重要度と満足度の両方を問い、結果をクロス集計することで、意識と達成の関係から課題が明確にできた。
- 学校が組織的に学校運営にあたることができているかどうか、教職員が改めて振り返る機会となった。
- 学校運営協議会による評価で、学校の取組が評価され、教職員の意欲が向上した。

#### ③ 公表に関して

- 子どもの学習や生活面での課題について、具体的に根拠をもって保護者に示すことができた。
- 学校が目指している取組の方向性が保護者・地域に理解されてきた。
- 学校への信頼感が増してきた。

#### ④ 課題解決に関して

- 地域行事に参加して積極的にコミュニケーションを図る教員が増えた。
- ゲストティーチャー等で来校していただく地域の方が増えた。
- 「子ども110番のいえ」を申し出る方が増えてきた。
- 学校行事に参加する保護者の数が増えてきた。
- 児童生徒による評価結果を、教員の学級経営の改善に生かすことができた。
- 課題解決に向けた議論と行動が、学校運営協議会の設置につながった。

#### ⑤ 学校評価の実施効果

- 学校評価の実施によって、どのような点で効果があったかをアンケートで尋ねたところ、小学校、中学校ともに「教職員の意識改革」「地域への情報提供」「地域の協力と続き、次いで小学校では「保護者の協力」(中学校は第五順位)、「学校の活性化」(同第四順位)、「特色ある学校づくり」であった。
- 本市が推進する地域に開かれた学校づくり、信頼される学校づくりに大きな役割が果たされている状況が見受けられる。

効果があったと回答した項目	小学校	中学校
教職員の意識改革	86.0%	77.8%
地域への情報提供	77.1%	68.1%
地域の協力	67.0%	51.4%
保護者の協力	59.8%	38.9%
学校の活性化	53.6%	40.3%
特色ある学校づくり	32.4%	34.7%
家庭の教育力の向上	27.9%	12.5%
児童・生徒の学習意欲の向上	21.2%	15.3%
地域の教育力の向上	19.0%	9.7%
生徒指導課題の解決	11.7%	18.1%
児童・生徒の学力の向上	10.1%	15.3%
教育課程の改善	8.4%	12.5%
その他	1.7%	4.2%

(母数；小学校 179 校，中学校 72 校，回答；複数選択制)

## (2) 課 題

### ① 評価項目の設定に関して

- 「点検型」だけでなく「課題発見型」の評価項目を取り入れるなど，より分析が深まる手法や項目の導入の拡大
- 評価者にとって，評価の基準が分かりやすい項目の設定
- 現状に適応した評価項目の設定
- 学校教育の重点及び教育指導計画と評価項目との関連付け

### ② 分析に関して

- 自己評価に際しての教職員の評価基準について，共通理解を図る必要がある。
- 評価者の資質を高めるための取組が必要である。
- 分析を深めるため，S Q S の活用による集計の効率化の徹底
- 小規模校では，個々の評価者の声に対して丁寧に対応できるが，大規模校では，数値的な傾向にとらわれてしまいがちになる。

### ③ 公表に関して

- 何のための学校評価かを明確にするため，目に見える形で学校の取組が変わったと見てもらえるような情報発信を行わなければならない。
- 評価の結果を学校だよりで配布するため，同じ内容を掲載するホームページをあまり見てもらえていない。

④ 改善策の行動化に向けた課題

- 改善案を具体化するため、より一層組織的な取組を行う。
- 学校評価をテーマとした懇談会の開催
- 評価結果を具体的に学校教育の改善に生かすため、速やかな校内研修の実施
- 人事異動等により、組織体制が変わる中で、前年度の評価結果を新年度の学校運営へ反映することを徹底する。

5 学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会

京都市の学校評価システムは、「自らを振り返り、互いに高めあう」ことを理念としており、学校・家庭・地域が「子どもを育む当事者」として関わることを最も重視している。

そのため、評価項目等も各校の課題に応じて焦点化・重点化して設定している。

一方、学校評価の実施状況や、本市が進める学校評価システムの客観性・信頼性を検証するとともに、第三者的な視点で学校の教育の質の向上につなげるため、学識経験者等による「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」（以下「検証委員会」という）を設置している。

なお、当該検証委員会は、昨年6月に制定された京都市行政評価条例（「京都市行政活動及び外郭団体の経営の評価に関する条例」）第11条第2項による「・・・評価について調査し、審議するため」の委員会としての機能も果たすものである。

【平成19年度 検証委員会開催状況】

① 日 時 平成19年12月7日（金）午前10時～正午

会 場 教育委員室

議 題

- ・平成18年度学校評価の取組状況
- ・深化する京都市の学校評価
- ・学校運営協議会の取組状況

（学校訪問）

- ・京都市立大原小中学校

② 日 時 平成20年3月3日（月）午前10時～正午

会 場 京都市総合教育センター第2研修室

議 題

- ・学校評価の方向性について
- ・京都市における学校評価システムの充実について
- ・平成19年度学校評価の実施状況について
- ・学校運営協議会の活動についての評価について

【検証委員会委員（19年度）敬称略・肩書は当時】

- 天笠 茂（千葉大学教授）
- 奥野 史子（スポーツコメンテーター）
- 加藤 明（京都ノートルダム女子大学心理学部長）
- 小松 郁夫（国立教育政策研究所 教育政策・評価研究部長）
- 細見 吉郎（宝ホールディングス参与）
- ◎堀内 孜（京都教育大学教授）
- 前平 泰志（京都大学教授）
- 長屋 博久（幼稚園保護者代表）
- 寺石 浩隆（小学校保護者代表）
- 山名 裕（中学校保護者代表）
- 矢放 眞文（高等学校保護者代表）
- 清野 嘉奈子（総合支援学校保護者代表）
- 東 千世子（京都市立中京もえぎ幼稚園長）
- 金澤 範義（京都市立向島二の丸小学校長）
- 松尾 玉樹（京都市立二条中学校長）
- 松木 博（京都市立日吉ヶ丘高等学校長）
- 森脇 勤（京都市立白河総合支援学校長）

※ ◎は委員長



## Ⅱ 学校での取組事例

**“私たちの学校”づくりをめざして**  
——参加から参画へ 学校評価を通して意識改革を——  
**京都市立伏見板橋小学校**

## 1 学校評価目標

- (1) 学校教育目標 「夢を抱き、心豊かにたくましく生きる板橋の子」
- (2) 育てたい子ども像  
「やる気のある子」 「思いやりのある子」 「あいさつのできる子」  
「やりぬく子」 「ありがとうの言える子」
- (3) 学校評価の目標 <学校・家庭・地域が双方向で高めあう関係の構築>  
学校評価システムは、学校改善に資することが大切であり、「学校が組織としての機能をどれだけ果たしているか」ということを、総合的・客観的に診断し、それを基に改善を図っていくものであると考える。

## 2 学校評価のねらい

- (1) 「P-D-C-Aサイクル」に基づいた学校評価システム
- (2) 評価の視点
  - ① 学校生活・家庭生活・開かれた学校づくり等において学校・家庭・地域が大切にしていることや果たすべき役割に関する項目を入れる。
  - ② 保・幼・小・中に共通する項目を設定する。
  - ③ 「改善の方向」等自由記述欄を設ける。
  - ④ 学校評価を通して改善されたことを明らかにしていく。
- (3) 情報提供・情報公開と説明責任
  - ① 学校経営の基本構想について文章・口頭（学校だより・学校ホームページ・PTA総会・参観懇談会・各種団体会合）で周知する。
  - ② 生活アンケート調査の結果についても公表する。
- (4) 評価の方法
  - <自己評価>
    - ・評価者は全教職員とする。
  - <外部評価>
    - ・評価者は、保護者・地域の方（学校運営協議会委員・各種団体長）とする。
    - ・学級懇談会、参観日等において、アンケート形式で評価表を配布・回収・集約する。
    - ・保護者、地域の方が評価しやすいよう「授業のねらい」等を掲示する。
  - ①自己評価と外部評価の両方の結果について校内で分析・考察を行い、共通理解を図る。
  - ②自己評価と外部評価の差に着目し、教育課題とその解決策を見出す。
  - ③学校評価の結果と分析・考察について、学校運営協議会に提示、意見を求める。
  - ④児童による評価の結果について、校内で分析・考察を行い、共通理解を図る。
- (5) 評価の公表
  - ・学校ホームページ、学校だより（地域回覧）等に掲載し、公表する。

### 3 学校評価年間計画

### 学校評価システム

学校評価・・・自己評価と外部評価、児童による評価			
① 家庭・地域の思いを知り、学校教育活動の充実と改善を図る。 ② 家庭・地域に、学校教育に積極的に参加・参画する意識の高揚を図る。 ③ 学校・家庭・地域が教育の課題を共有し、それぞれの役割と責任を明らかにする。			
月	年間計画 (外部評価・自己評価の関連と1年間の流れ)		
	保護者・地域・学校運営協議会	学校総体	教職員
4月	情報提供 ← 説明会・学校だより・学年だより 学級だより・参観・懇談会・ HP・各種団体の会合 等	前年度の自己評価の分析 ○ 学校教育目標・指導の重点 学校経営方針 ・校内組織づくり (分掌・評価委員会等) ・年間計画作成 (学校評価システム)	○ <u>学校長の学校づくり構想を</u> <u>受けて学級経営方針作成と指導</u> 方針を作成 (5月) ・ 学年目標・学級目標 ・ 各委員会の年間計画作成等
5月	● 学校運営協議会委員の意見	○ 幼小中連携 【共通理解】【計画】(P)	
6月	● 外部評価 (1) 保護者・地域	● 自己評価 (1) 【実践・行動】(D) (A)	
7月	● 児童「板橋っ子いきいき アンケート」(1)	(C)	○ <u>教職員の個人の自己評価 (1)</u> 各個人の改善点 (自己評価分析とヒヤリング等) ・ 学級経営方針の活用 ・ 研修・自己研鑽・学級経営の 見直し (9月から改善)
8月	公表	集計・考察・改善点 (学校評価委員会) (課題の共有)	
9月	情報提供 説明・懇談会・休日運動会 学校だより・学年だより 自由参観 等	【活動】 (A) 【学校公開】 (自由参観・行事・懇談会) ○ 幼小中の連携 集計 (学校評価委員会) 改善策の考察 (委員)	← 分析・考察 (各担当)
10月	● 外部評価 (2) 保護者・地域 ● 児童「板橋っ子いきいき アンケート」(2)	改善点の【共通理解】 (課題の共有) ● 自己評価 (2)	○ (課題の共有) ● <u>教職員の個人の自己評価 (中間)</u> 組織としての実践の見直し
11月	公表	【活動】 (A)	
12月	情報発信 学級懇談会・研究発表会参観日 学芸会・学校だより 等		
1月	情報発信 学級懇談会 自由参観日・学校だより <u>成長の足あと参観日</u> ・懇談会	● 教職員の「学校運営自己評価 アンケート (3) (C) 組織としての実践の見直し 集計 (学校評価委員会) 改善策の考察 (委員) 改善点の【共通理解】 (課題の共有)	← 分析・考察 (各担当) (課題の共有)
2月			● <u>教職員の個人の自己評価 (年度末)</u> (次年度へ)
3月		○ 幼小中の連携 次年度へ反映	

## 4 取組の概要

### (1) 19年度の取組の流れ

年 月 日	概 要
5月24日	・学校運営協議会理事会の開催。
5月30日	・校内学校評価委員会の開催。学校評価のねらい等の共通理解。
6月7日	・第1回学校運営協議会開催。今年度の取組について説明。
6月9日	・第1回学校評価（外部評価・自己評価・児童による評価）実施。 ＜休日参観時＞
7月5日	・職員会議で第1回学校評価について、分析、検討。
8月23日	・学校評価委員会（学校運営協議会）開催。 ・第1回学校評価結果について説明。学校運営協議会理事より助言を受ける。
10月30日	・第1回学校評価の結果を、学校ホームページに公開。
10月22日	・第2回学校評価（外部評価・自己評価・児童による評価）実施。 ＜自由参観時＞
10月26日	・第2回学校運営協議会開催。
12月18日	・学校評価委員会（学校運営協議会）開催。 ・第2回学校評価結果について説明。学校運営協議会理事より助言を受ける。 ・今後の方向について共通理解を図る。
1月24日	・学校評価委員会（学校運営協議会）開催。 ・学校運営協議会理事より助言を受ける。
1月31日	・第2回学校評価の結果を、学校ホームページに公開。 ・学校運営自己評価アンケートを実施。
2月29日	・学校運営自己評価アンケートの結果分析。

### (2) 平成18年度の学校評価結果を生かすために

平成18年12月に学校評価委員会を開き、2回目の学校評価結果分析を行った。その際、学校運営協議会委員から、学校評価の実施に関して次のような意見が出された。

- 「学校評価をして何が改善されたのか。」「評価をどう活用していくのか」が、保護者や地域に見えるよう、改善につながる学校評価であるべきではないか。
- 児童の評価も必要ではないか。
- 学校だより・学級だより等で生徒指導や人権に関わる指導を積極的に広報していく必要があるのではないか。
- 学校評価の回収・集約・分析・公表までのよりスムーズなシステム化を図る必要があるのではないか。

また、学校評価の内容から学校改善に向けて次のような課題が見えてきた。

- 基礎基本の学力を本当につけられているのか。学力向上に向けて更に研究を進めていく必要があるのではないか。
- 子どもの心の育成（例えば、美しい物を美しいと感じる心の育成）を図るには、校内整備や教育環境整備をもっと進めていかなければならないのではないか。
- 子どもと子ども、教師と子ども、親と子どもなど人と人との繋がりが希薄になってきているのではないか。

次年度の学校運営に関わり、上記のことを具体的に実践していくために平成19年2月、教職員対象に『学校運営自己評価アンケート』を行った。それは、1年間の取組全てを見直すため、68項目にも及んでいる。A B C D 4段階でチェックするだけでなく、教職員一人一人は何ができるかという観点から考え、改善策や引き続き取り組むことなどについて言葉でも記述できるように工夫した。

その結果、教職員から改善に向けての多くの意見が得られた。出された意見を踏まえ、19年度の学校運営に生かしていくようにした。具体的には、次の通りである。

平成19年度		学校運営自己評価		伏見板橋小学校	
		名前( )			
☆ 今年1年を振り返って、評価をお願いします。来年度につなげていきたいと考えていますので、 特に改善点やご意見をたくさんいただけたらとありがとうございます。( 日まで) <div style="float: right; border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; font-size: small;">             あなたも学校運営の改善者の一です！           </div>					
<b>Q教育目標について</b>					
<b>1 学校教育目標・重点目標について</b>		評 価		改 善 点 ・ 意 見 等	
① 学校目標は、各校の子ども達の実態に照して設定されているか。		A B C D			
② どの目標も子ども達に子ども達のめざす目標として意識することができているか。		A B C D			
③ 本校数分掌の計画や目標計画に基づいて、組織的に教育目標の達成に向けて具体的な取組が進められているか。		A B C D			
④ 子どもたちは、理解ができるようになってきているか。		A B C D			
⑤ 子どもたちは意欲的に学習しているか。		A B C D			
⑥ 後片付けがしっかりできるようになっているか。		A B C D			
⑦ 伝え合う力(話す力・聞く力)は育ってきているか。		A B C D			
<b>2 学年目標・学級目標について</b>					
① 学年目標や学級目標は、各学年の子ども達の実態に照して設定されているか。		A B C D			
② 目標実現に向けて学年内で連携・協力して取組を進めることができたか。		A B C D			
<b>3 学年・学級経営の取組について</b>					
① 学年として学年経営・学級経営力も互いに高め合う場をもつことができたか。		A B C D			

### ① 基礎基本の学力をつけ、さらに学力向上をめざして

#### 《朝読書》

朝の帯時間には「読書」を、昼休み後に「チャレンジタイム」を設定することとした。朝読書を毎朝実施するために学級文庫の充実、読書ノートの活用などについて話し合った。

#### 《チャレンジタイム》

研究委員会の中に“学力向上チーム”を設置し、学力向上に向けて考えていくこととした。チャレンジタイムについては、基礎基本の学力をきちんとつけるという観点から内容を検討することなどを確認した。

## ② 人と人の絆を深めていくために

### 《ジャンボ遊び》

月2回木曜日の昼休みを0.5H程度延長し、学級遊びの時間とした。学校での繋がりは人と人の繋がりの基本となる。その繋がりを深めるために、ジャンボ遊びの時間をどのような時間にするのか、話し合いの時間を充分にとることや学級担任が寄り添い、子どもたちの様子を観察し、支援していくことなどを確認した。

### 《縦割り集会》

年6回全校集会を行う。以前から行っていたが、回数を増やしたり、年間通して仲間意識が持続できるよう時期を検討したり、子どもたちの仲間意識が高められるような内容を検討したりするなどの点について確認した。

### 《児童朝会》

朝会とは別に、児童会の子どもたちが企画して行う。全校児童の繋がりを深める内容を、その都度工夫することや、音楽委員会の活動として、毎回音楽委員会中心に全校合唱を行うなどの確認をした。

## ③ 子どもたちの心を育むための校内環境整備

### 《SCD（スーパー・クリーン・デー）》

ジャンボ遊びと同じように月2回清掃時間を0.5H延長して清掃を行う。“きれいであることが気持ちよい”と感じる子どもになってほしいという願いを込めて、学級担任だけでなく、全ての教職員が子どもたちと関わりながら清掃を進めていくこと、また掃除の仕方などもその都度丁寧に教えていくことなどを確認した。

### 《校内環境整備》

学習環境部を研究組織の中に設置し、“算数コーナー”を設置することや廊下掲示板・教室の掲示板等の充実について検討を進めることとした。

### 《読書環境整備》

図書部を中心に図書室の本の整備や掲示板の整備、ブックトークの実施などを、図書ボランティアの方と連携をとりながら進めていくことを確認した。

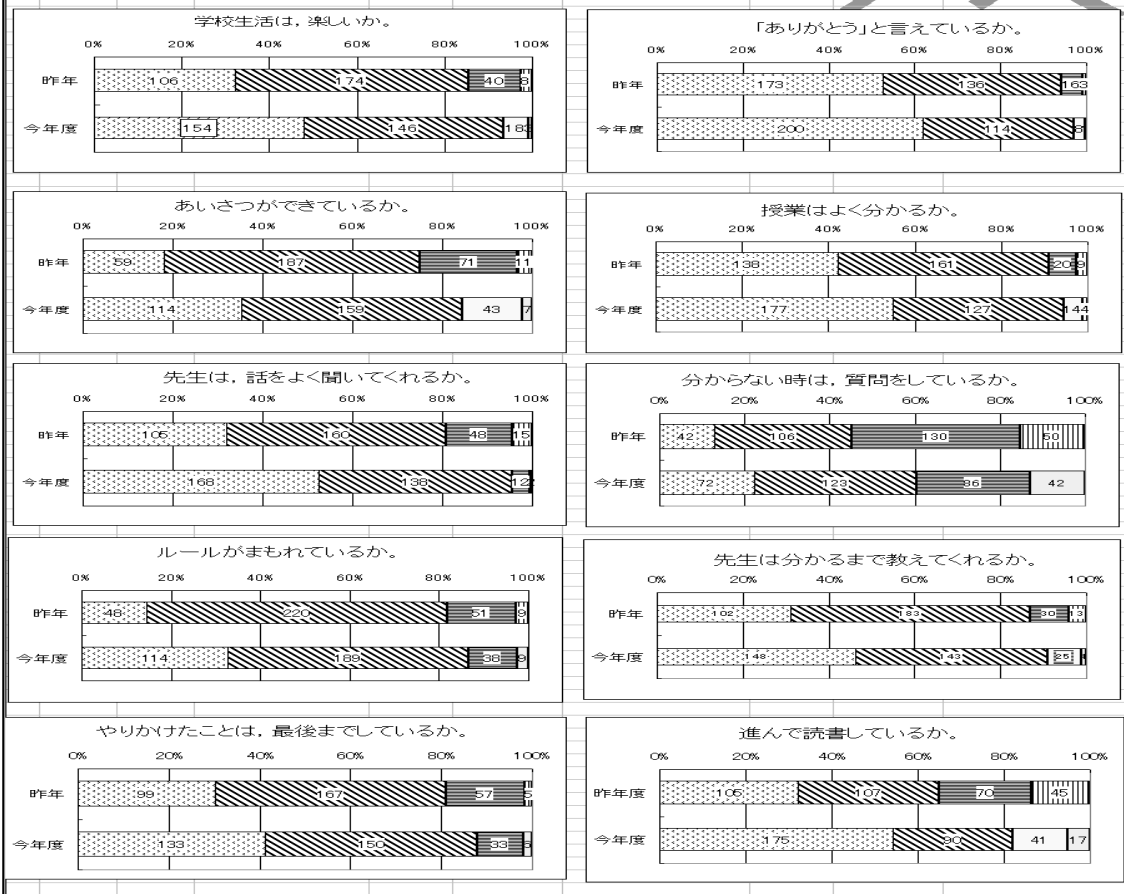
このように学校改善の視点から校時表も変え、19年度をスタートさせた。

## (3) 昨年度の結果と比較した分析

学校だより「特別号1」に子どもたちを対象に行った『板橋っ子いきいきアンケート』の結果を、昨年度末に行った結果と比べ、分析した結果を公表した。全ての項目においてポイントが上昇していたので、特に上昇が顕著な次の10項目について、3つの視点から分析を行った。

## 集計結果より考察

昨年2月に初めて行った子どもたちのアンケート。子どもたちの意識はどのように変わってきているのでしょうか。中学年・高学年の結果を昨年2月と今回の結果を比べてみました。(低学年は2段階評定、中・高学年は3段階評定)



### ○子どもたちの学びを構築する

10項目のうち、(C)(D)(F)(G)(H)の項目が関連していると考えます。今年度見直したチャレンジタイムの取組や、重点的に行ってきた校内環境整備はもちろんのこと、研究において学力定着調査結果を分析し、子どもたちの実態を把握した上で研究を行ってきたことなどの効果が上がってきていると考えられる。また、このアンケート結果を示す中で、当たり前のことではあるが、45分間の授業時間の確保や授業設計をしっかりとてて授業にのぞむ・・・など授業の充実を図ることが再確認できた。

### ○子どもたちの心を育む

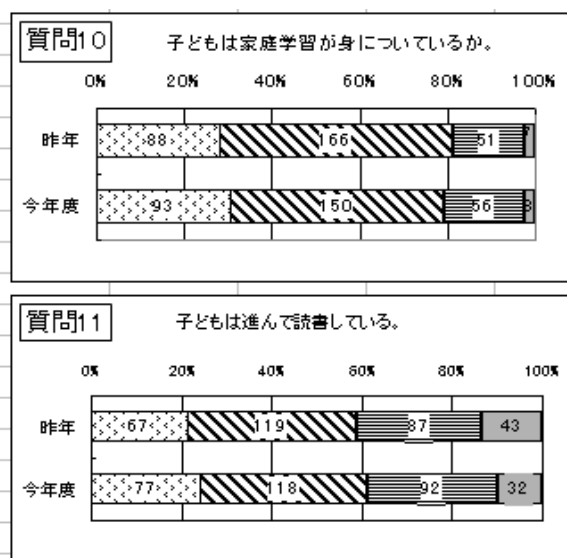
(B)(E)の項目が関連していると思われる。子どもたち同士の、担任と子ども、地域の人との繋がりを深めるための取組としてジャンゴ遊びや縦割り活動や集会活動の充実、子どもたちの運営による児童朝会の設定、児童会の子どもたちによるあいさつ運動などの取組の効果ができていると考えられる。しかし、改善点についても意見として書かれていたので、検討する必要がある。

### ○子どもたちの心に栄養を与える

SCD(スーパー・クリーン・デー)の設定、読書好きの子どもに育つことを願った図書館だよりの充実や、“ブックトーク”等の取組の効果が現れてきている。

学校評価では、結果が悪かったポイントをしっかり受け止め、改善策について考察することが大切である。学校だより「特別号2」では、保護者・地域・教職員を対象に行ったアンケート結果の分析を“変化が見られない(取り組んでいるがなかなか効果があらわれない)項目”“変化が見られる(取組の効果が現れてきている)項目”に分けて分析した。改善に向けては、学校で考えていることその他に、自由記述欄に書かれていた保護者、地域の方の意見も載せ、総合的に考えていけるようにした。

変化が見られない項目



## 5 成果と課題

### (1) 成果

- ① 学校運営協議会の中に学校評価委員会を設置し、評価項目を主体的に検討していく取組を通して、地域・保護者そして学校が各々の教育のあり方を見直す契機となり、各々の立場での「学校づくり」に参画するということに対する意識が高まってきた。
- ② 学校運営自己評価アンケートを教職員に向けて実施することにより、それぞれの立場から学校運営について考え、学校改善につなげることができた。
- ③ 昨年の結果と比べて分析することにより、改善の効果や更なる改善点が明らかになった。

### (2) 課題

- ① 評価項目についてマンネリ化しないように、以下の視点で検討する必要がある。
  - ・学校での取組とリンクさせ、取組の効果や更なる改善点が見えるような項目に絞る。
  - ・地域の方からの回収率を上げるために、地域の方の目で評価できるような項目に改善する。
- ② 子どもは学校だけで育つのではない。“学校評価”とはいうものの、この評価は子どもをどう育てるのかということを考えるいい機会となる。家庭や地域も含め、子どもたちに関わる全ての場面で、この評価を生かしていけるように考えていく必要がある。

これらのことを考えていくことが、板橋ならではの「板橋教育」の構築、自分たちの手による“私たちの学校づくり”につながっていくものであると考えている。

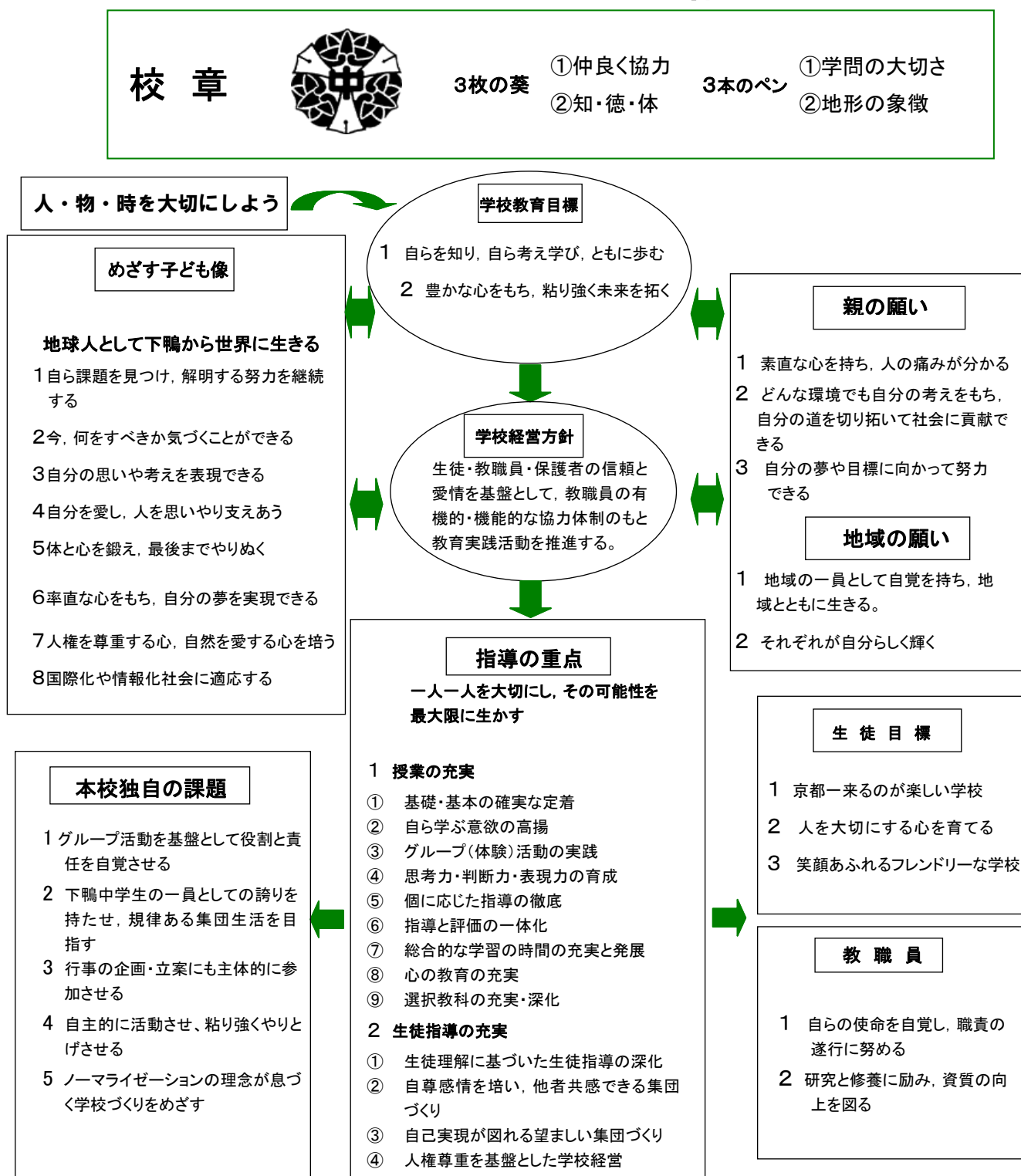


# 学校改善を目指した学校評価

京都市立下鴨中学校

## 1 学校教育目標

### 下鴨中学校・教育構想図



## 2. 学校評価のねらい・基本的な考え

近年「子どもの育ちや学び」を支える様々な環境が大きく変貌しつつある。京都においては、明治2年に全国に先駆けて小学校の創設が町衆の手によって成され、以来130有余年、地域の方々は様々な形で学校教育に関わり、理解・支援を続けていただいている。このような伝統に支えられ、地域に根ざした学校でさえも、現状に甘えることなく、より一層の教育実践が求められている。教育が有する不易な営みを踏まえつつ、社会や地域・家庭など、子どもを取り巻く環境の変化に対応する改革をより進めていくことが必要となっている。

正に今の学校教育は、地域を中心に様々な人材の活用や教材の工夫、さらには関係諸機関や地域諸団体との連携という「地域ぐるみの学校づくり」を進める一方で、生徒の内面の育成について、いわゆる「生きる力」を育み、将来にわたって主体的に学び続けようとする力を育てるといふ「生涯学習」の理念を具現化していく営みを進めていると言えよう。

「地域ぐるみの学校づくり」においては、学校と家庭・地域の双方向の共通理解・連携が不可欠であり、「目指す子ども像」や教育ビジョンの共有が前提となる。そのために学校として様々な機会を通して積極的に情報発信を行い、情報や教育内容についての説明責任を果たす必要がある。

加えて学校裁量権の拡大など教育改革が進められる中で、学校・家庭・地域の連携とそれぞれの役割の上に立って、結果を含め学校としての行為責任の明確化を図ることが求められている。

このような状況の中で、本校では、学校・家庭・地域の教育活動に関するそれぞれの課題解決のために、従来学校が主に行ってきた取組の評価活動を、お互いの関連性を重視しながらの評価活動として再構築し、以下の5点のねらいを挙げて学校評価システムの取組を進めることにした。

ねらい1	学校教育目標およびそれを受けての重点方針等を <b>周知</b> すること
ねらい2	様々な機会に教育活動を <b>公開</b> すること
ねらい3	具体的改善に結びつく <b>客観的</b> 評価を行なうこと
ねらい4	教育活動の成果と課題を <b>明確</b> にすること
ねらい5	教育活動全般の <b>充実・改善</b> を図ること

学校評価は、学校改善を目指すものでなければならない。そのために教職員全員が、自らの思いだけでなく、保護者の方や地域の方の「こんな子どもを育てたい」という強い思いを共有し、共通理解することからスタートすることが重要であり、子どもの実態や、地域の実態に応じた教育課題を明確にし、特色ある教育活動の創造を目指していかなければならない。

学校評価は学校自らがそれぞれの教育目標の達成状況を学校総体・教職員一人一人の段階で客観性を持たせながら明らかにし、その結果を家庭・地域への働きかけを含めた学校教育活動の充実・向上につなげるものである。したがって本来的には学校教育活動の全てを対象に行なわなければならない。年間を通して計画的に実施し、可能な限り年度内での教育活動の充実・改善を図る必要がある。また評価結果の分析については過去の状況を加味した継続性のあるものにしていく方向で進めている。

### ○今年度の重点項目

- 教職員自己評価の項目を昨年に比べて大幅に精選して、より課題が明確になるように工夫した。
- 集計結果を点数化し、カラーグラフ化して全教職員に示し、職員会議・研修会で集計結果から何が課題かを考え、共通理解を図り、改善策を見出して、各分掌ですばやく対応する体制づくりに重点をおいた。

## 3 学校評価年間計画

いつ	どこで	何を	だれがどのように
4月5月	学校評価委員会 職員会議 校務分掌会	教育構想図 <b>PLAN</b> 学年目標策定 <b>PLAN</b> 教育活動実施 <b>DO</b>	各部, 各分掌係 各学年で検討 教職員
6月	学校評価委員会 職員会議	評価項目決定	各部, 各分掌係 各学年で検討
8月	研修会  PTA 運営委員会 学活時  学校評議員会	「評価項目について」 回答 <b>CHECK</b> 評価項目回答 生徒目標評価回答 生徒評価回答 評価項目回答	全教職員  PTA 運営委員 生徒全員 生徒全員 学校評議員
9月	職員会議	結果報告, 分析 学校だより, ホーム ページ等で公表	教職員
10月		教育活動実施 <b>DO, ACTION</b>	教職員
1月	職員会議  学活時  PTA 運営委員会 学校評議員会	評価項目回答 <b>CHECK</b> 生徒目標評価回答 生徒評価回答 評価項目回答 評価項目回答	教職員  生徒全員 生徒全員 PTA 運営委員 学校評議員
2月	研修会	年間反省 結果報告, 分析 来年度の課題検討 <b>ACTION</b>	教職員
3月	部会, 分掌会, 係会	改善策決定 <b>ACTION</b> 学校だより, ホーム ページ等で公表	教職員

## 4 取組の概要

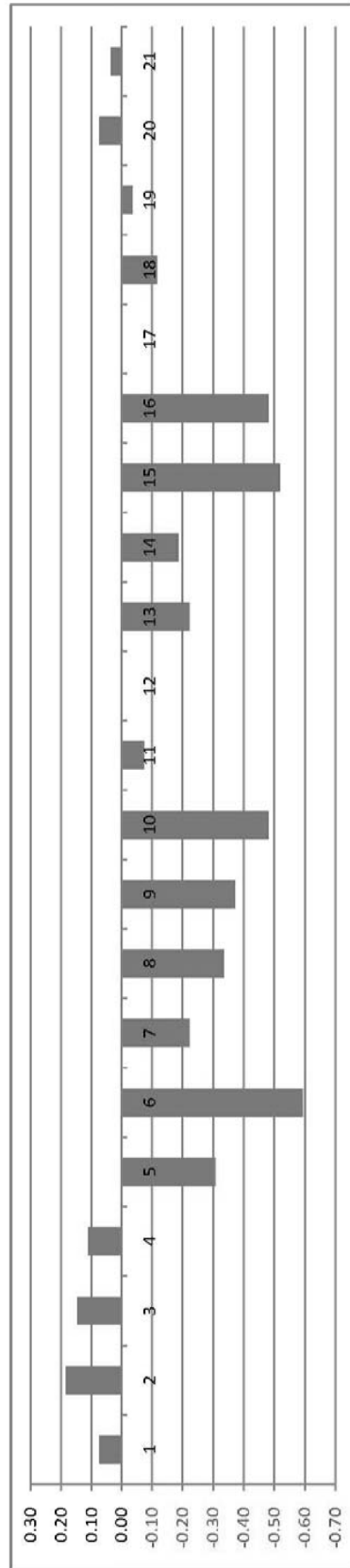
(1) 教職員による自己評価

### 平成19年度 前期 学校評価 教職員用 ☆学校経営☆

NO	観 点 内 容	A	B	C	D	得点化
1	教育目標や指導の重点にあった教育が計画されていると思う。	5	19	3	0	0.07
2	自分のやっていることは教育目標や指導の重点のために役割を担っていると思う。	6	20	1	0	0.19
3	自分のやっていることは学年の中で役立っていると思う。	4	23	0	0	0.15
4	自分のやっていることは分掌の中で役立っていると思う。	5	20	2	0	0.11
5	学校運営に教職員の意見が反映されていると思う。	1	17	7	1	-0.31
6	仕事についての指示や報告のルートははっきりしていると思う。	0	13	12	2	-0.59
7	企画の人数は適当であると思う（各種校内委員会等）	1	20	5	1	-0.22
8	仕事を進める上で協力しあう体制ができていると思う。	8	14	8	2	-0.33
9	各学年間が連携し、協働体制ができていると思う。	1	16	9	1	-0.37
10	各分掌間が連携し、協働体制ができていると思う。	2	11	13	1	-0.48
11	自分の適性に応じた校務分掌にしていると思う。	3	19	5	0	-0.07
12	自分は分掌した分掌を計画的に実行していると思う。	3	21	3	0	0.00
13	日々の教育活動で気軽に相談しあえる雰囲気がある。	2	19	4	2	-0.22
14	仕事に必要な知識・技能を伸ばそうとする雰囲気がある。	1	21	4	1	-0.19
15	コミュニケーションの流れはスムーズであると思う。	2	12	10	3	-0.52
16	新しい企画に積極的に取り組もうとする雰囲気がある。	1	14	10	2	-0.48
17	学校は教育活動全般について生徒や保護者の願いによく応えている。	3	21	1	1	0.00
18	学校は地域と連携した取り組みを積極的に取り入れている。	3	18	4	1	-0.12
19	教職員の適正な職務についての教職員の自覚が高くなっている。	5	18	2	2	-0.04
20	自分は「あいさつできる生徒」を育てる指導に努力していると思う。	6	17	4	0	0.07
21	自分は「わかりやすい授業」の実践に努力していると思う。	3	22	2	0	0.04

A	よくあてはまる (ほぼ80%程度まで)
B	ややあてはまる (ほぼ60%程度まで)
C	あまりあてはまらない (ほぼ20%程度まで)
D	ほとんどあてはまらない (20%以下)

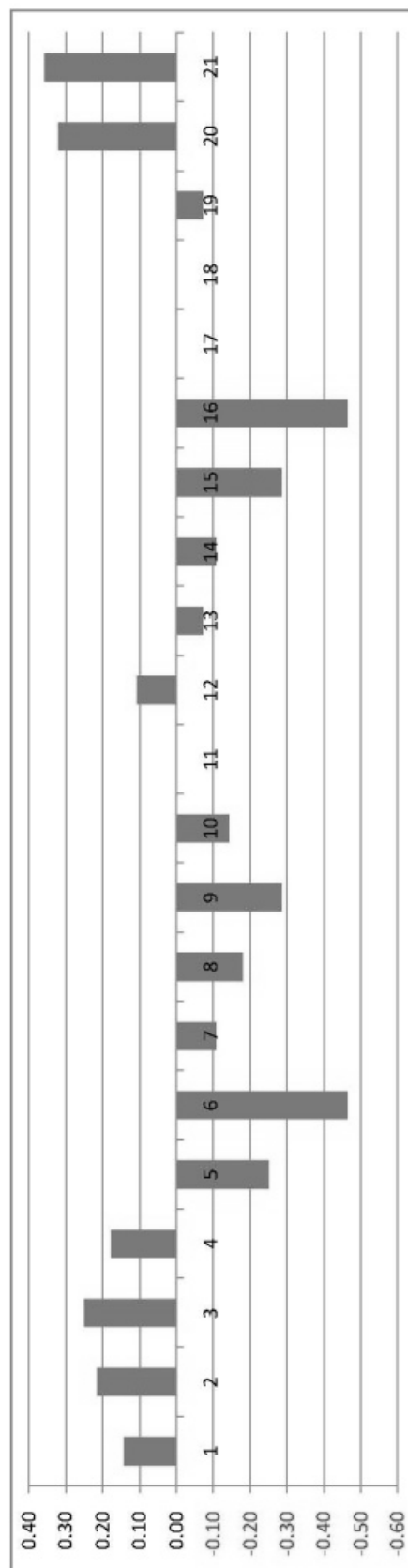
0.2以上
0.2未満
0.0未満
-0.2以上



# 平成19年度 年度末反省 教職員用 ☆学校経営☆

NO	観 点 内 容	点数化	A	B	C	D
1	教育目標や指導の重点にあった教育が計画されていると思う。	0.14	5	22	1	0
2	自分のやっていることは教育目標や指導の重点のために役割を担っていると思う。	0.21	8	18	2	0
3	自分のやっていることは学年の中で役立っていると思う。	0.25	7	21	0	0
4	自分のやっていることは分掌の中で役立っていると思う。	0.18	7	19	2	0
5	学校運営に教職員の意見が反映されていると思う。	-0.25	3	15	10	0
6	仕事についての指示や報告のルートははっきりとしていると思う。	-0.46	1	14	12	1
7	企画の人数は適当であると思う（各種校内委員会等）	-0.11	2	22	3	1
8	仕事を進める上で協力しあう体制ができていると思う。	-0.18	4	17	5	2
9	各学年間が連携し、協働体制ができていると思う。	-0.29	2	17	8	1
10	各分掌間が連携し、協働体制ができていると思う。	-0.14	3	19	5	1
11	自分の適性に応じた校務分掌についていると思う。	0.00	4	20	4	0
12	自分は分掌した分掌を計画的に実行していると思う。	0.11	5	21	2	0
13	日々の教育活動で気軽に相談しあえる雰囲気がある。	-0.07	5	17	5	1
14	仕事に必要な知識・技能を伸ばそうとする雰囲気がある。	-0.11	5	15	8	0
15	コミュニケーションの流れはスムーズであると思う。	-0.29	3	15	9	1
16	新しい企画に積極的に取り組もうとする雰囲気がある。	-0.46	1	14	12	1
17	学校は教育活動全般について生徒や保護者の願いによく応えている。	0.00	3	22	3	0
18	学校は地域と連携した取り組みを積極的に取り入れている。	0.00	3	22	3	0
19	教職員の適正な服務についての教職員の自覚が高くなっている。	-0.07	2	23	2	1
20	自分は「あいさつでできる生徒」を育てる指導に努力していると思う。	0.32	9	19	0	0
21	自分は「わかりやすい授業」の実践に努力していると思う。	0.36	11	16	1	0

A	よくあてはまる（ほぼ80%程度まで）	A=+1点	0.2以上
B	ややあてはまる（ほぼ60%程度まで）	B=±0点	0.2未満 0.0以上
C	あまりあてはまらない（ほぼ20%程度まで）	C=-1点	0.0未満 -0.2以上
D	ほとんどあてはまらない（20%以下）	D=-2点	-0.2



## 【自己評価の分析】

- 6. 「仕事について指示や報告のルートははっきりしていると思う」
- 15. 「コミュニケーションの流れはスムーズであると思っている」

この項目については、毎年得点が低く、課題になっている。日々コミュニケーションを十分とって人間関係を大切にしたい指導体制の確立を進めているが、まだ不十分である。職朝の開始を5分早め、毎日8時20分から教職員の意思疎通を図り、指示のルートにそった打ち合わせも行なっている。伝える側の工夫と気配り、伝えてもらう側の積極的に情報を聞く姿勢、「情報活用能力」をさらに磨いていく必要があるように思う。

- 8. 「仕事を進めていく上で協力しあう体制ができていると思う」
- 9. 「各学年間が連携し協働体制ができていると思う。」
- 10. 「各分掌間が連携し協働体制ができていると思う。」

この3つの評価項目については、打ち合わせの時間が少ないという意見もあるが、実際は時間はある程度確保できている。打ち合わせの中味の問題もあるように感じる。今後組織力の強化に努めていきたい。

- 2. 「自分のやっていることは教育目標や指導の重点のために役割を担っている」
- 3. 「自分のやっていることは学年の中で役立っていると思う」
- 4. 「自分のやっていることは分掌の中で役立っていると思う」
- 12. 「自分は分担した分掌を計画的に実行していると思う」
- 20. 「自分はあいさつできる生徒を育てる指導に努力していると思う」
- 21. 「自分はわかりやすい授業の実践に努力していると思う」

この6つの評価項目については学校経営全般の結果から「自分は」やっている。という評価である。自分のやっていることは自分にははっきりと見えているので評価が高い。他の人の仕事の部分は見えにくい。そして組織となると、どうしても人任せのところがあるのである。組織の評価に課題が集中しており、学年として、また学校全体としてどのように取り組んでいくのか、もう一度原点にもどって考えていく必要がある。個々が一生懸命やっていることが生きる組織を作っていくには、全員が学校経営に自ら参画している意識を強く持つことである。人まかせではなく、主体的にかかわっていく連帯感と協働意識が必要である。本校は過去のキーワードとして「信頼～教職員・生徒・保護者地域の方々との信頼～」、「コミュニケーションの流れ」を打ち出したが、今後さらに「協働体制確立」に向かって進みたい。

「学校教育目標」「めざす子ども像」の共有のビジョンを教職員が持つことによって子どもを中心にすえたさらなる元気ある学校づくりをめざし、反省が反省だけに終わらず具体的な方策を教職員の協働体制で行うことが必要である。

【自己評価のまとめ】

前期の教職員自己評価と年度末教職員自己評価を比べてみると、－0.2以下の項目が9項目から5項目に減少している。また0.2以上の項目も0から4項目に増えている。これは職員会議・研修会での共通理解から改善策が図られた成果ではないかと考える。1つ1つの項目についても、比較してみるとプラス（よくあてはまる、ややあてはまる）の点数が前期の評価にくらべて増えている。特に20「自分はいさづつできる生徒を育てる指導に努力していると思う」と、21「自分はわかりやすい授業の実践に努力していると思う」が大きくプラスになっている。これは一人一人の教職員が課題解決のために努力しているあらわれであり、また学校指導体制の中で協働体制が進みつつある結果ではないかと考えている。

(2) 生徒による授業評価

生徒用アンケート		全学年				点数化	
NO	項目	合計					
		A	B	C	D		
1	私は、学校ですすんで教職員や友達にあいさつしている。	134	249	62	13	0.10	
2	私は、遅刻しないように努力している。	322	98	29	6	0.62	
3	私は、人を大切にするように努めている。	237	195	21	3	0.46	
4	私は、物を大切にするように努めている。	216	212	25	4	0.40	
5	私は、時を大切にするように努めている。	169	233	44	11	0.23	
6	私は、全校・学年集会などで人の話をきいている。	134	244	70	9	0.10	
7	私は、みんなと協力して学校生活や行事でいろいろな取組みをしてい	181	202	60	12	0.21	
8	私は、学校生活で困ったときに先生に相談しようと思っている。	55	151	142	111	-0.67	
9	私は、掃除をきっちりにしている。	161	212	49	8	0.22	
10	私は、学校を良くしていこうと思っている。	99	214	92	25	-0.10	
11	私は、学校に行くのを楽しみにしている。	185	186	63	23	0.17	
12	私は、学校の行事に楽しく参加している。	230	172	38	15	0.36	
13	私は、教科の授業がよくわかる。 (先生は授業中わかりやすく説明してくれる)	国語	184	214	45	12	0.25
14		社会	220	190	37	8	0.37
15		数学	170	189	76	18	0.13
16		理科	190	189	57	18	0.21
17		音楽	204	208	31	11	0.33
18		美術	194	213	39	7	0.31
19		保健	207	214	28	5	0.37
20		体育	213	210	27	4	0.39
21		技術	247	175	28	3	0.47
22		家庭	210	207	28	11	0.35
23	英語	160	218	53	23	0.13	
24	私は、ALTによる授業が楽しみである。	192	206	47	12	0.26	
25	私は、始業のチャイムで席に座っている。	137	197	94	29	-0.03	
26	私は、毎時間の各授業の「ねらい」がわかっている。	179	204	62	10	0.21	
27	私は、教科で複数（ペア、グループ、班など）で活動する授業が楽しい。	75	228	124	32	-0.25	
28	私は、勉強していくことが将来に役立つと思っている。	186	191	56	23	0.18	

A	よくあてはまる (ほぼ80%程度まで)	A=+1点		0.2以上
B	ややあてはまる (ほぼ60%程度まで)	B=±0点		0.2未満0.0以上
C	あまりあてはまらない (ほぼ20%程度まで)	C=-1点		0.0以上-0.2以上
D	ほとんどあてはまらない (20%以下)	D=-2点		-0.2以下

【生徒による授業評価の分析】

8. 「私は学校生活で困ったときに先生に相談しようと思っている」  
 27. 「私は教科で複数で活動する授業が楽しい」

この2項目の評価項目については、得点が低く、課題が見られる。中学生になると発達段階として先生や親より、相談は友達にするという年齢であり、得点化は他の評価項目に比べて毎年低い。しかし教職員としてはより相談しやすい雰囲気を作っていく努力は必要であり生徒との信頼関係を築き、生徒の悩みや相談にのれるように努めなければならない。

10. 「私は学校を良くしていこうと思っている」  
 25. 「私は始業のチャイムで席に座っている」

この2項目の評価項目についてもやや得点が低い。今年度生徒会の本部役員の人数を増やしたことにより、生徒会活動がより活発化して、委員会活動の活性化にもつながることを期待している。生徒の自主活動を通して基本的な生活習慣が確立し、ベル席も定着していくことを願っている。そして学校を生徒の手で良くしていこうという意識をもっと持って、取り組みを進めてほしい。生徒会主催のパワーアップウィークの取組を年間3回実施している。生徒自らが自らの学校生活を点検するパワーアップウィークの取組を通して、学校を自らの手でよくしていこうという意識と、毎日の学校生徒を一つ一つ点検することを身に付けさせたい。そして学校生活を安定させ、生徒目標の達成につなげていきたい。

### (3) 保護者による評価

毎月行なわれているPTA運営委員会で、下の10項目について年間2回の学校評価を実施している。また、学校行事や自由参観週間・休日参観の時に自由記述のご意見をいただいている。結果と考察については、ホームページ等によって公表している。

下の10項目について、特徴的な項目について分析を行なった。

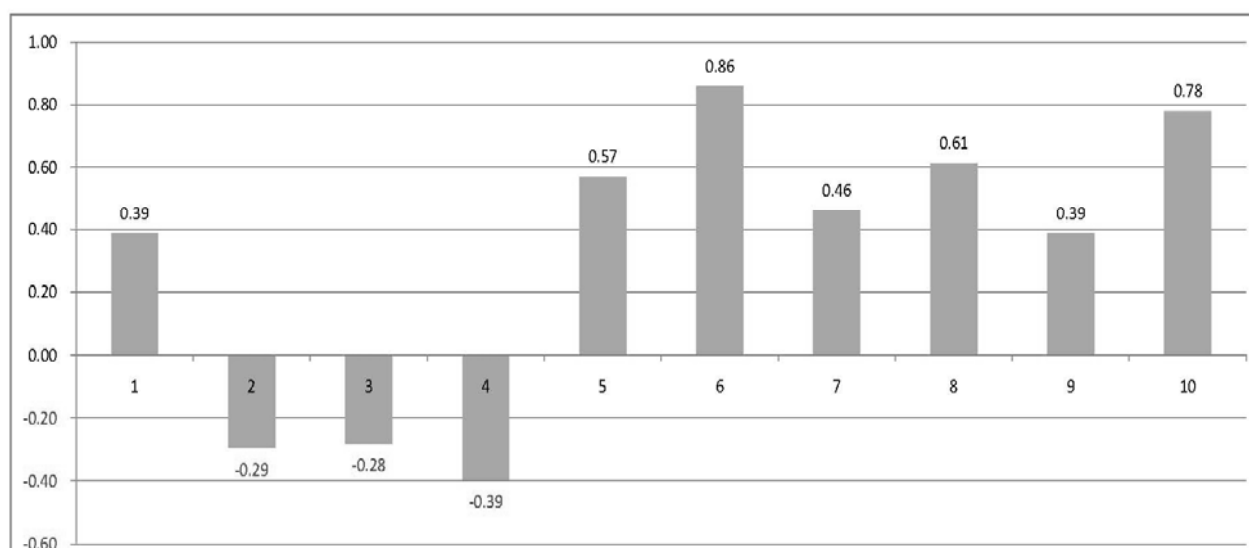
## 平成19年度 前期 学校評価 保護者用

NO	観 点 内 容	コメント	A	B	C	D	E	得点化
1	配布物・参観・行事等で学校の様子がわかる。		43	43	7	0	7	0.39
2	教科の先生は、わかりやすく授業を進めている。		7	22	22	0	50	-0.29
3	選択教科で、意欲的に学習している。		14	22	0	14	50	-0.28
4	学校には気軽に相談できる雰囲気がある。		7	36	21	7	29	-0.39
5	安心して学校にいかせている。		64	29	7	0	0	0.57
6	子どもは、遅刻しないように意識して登校している。		86	14	0	0	0	0.86
7	子どもは、学校に行くのを楽しみにしている。		43	50	0	0	7	0.46
8	子どもは、学校の行事に楽しく参加している。		57	36	0	0	7	0.61
9	家で、子どもとのふれあいや対話をもつように努めている。		36	57	0	0	7	0.39
10	家で、「おはよう」などのあいさつをしている。		78	22	0	0	0	0.78

上のA～Eの数値は%です

A	よくあてはまる (ほぼ80%程度まで)	A=+1点
B	ややあてはまる (ほぼ60%程度まで)	B=±0点
C	あまりあてはまらない (ほぼ20%程度まで)	C=-1点
D	ほとんどあてはまらない (20%以下)	D=-2点
E	わからない	

0.2以上
0.2未満 0.0以上
0.0未満 -0.2以上
-0.2未満





## 【保護者による評価の分析】

### 2. 「教科の先生はわかりやすく授業を進めている」

この設問は、よくあてはまるが7%、ややあてはまる22%と合わせても30%弱である。そして、逆にあまりそう思わないが22%と多いのは、親としてもっと教員の分かる授業への教材研究・工夫を望まれていることを示している。また、半数がよくわからないと答えていることから、授業の場面を実際あまり見ておられないことが伺われる。できるだけ授業参観などの機会を多くしたりする工夫と機会だけをつくるのではなく、実際に足を運んでいただけるように呼びかけや内容の工夫などに取り組むことが必要であると考ええる。

### 3. 「選択教科で、意欲的に学習している」

この設問については、よくあてはまる14%、ややあてはまる22%と合わせて36%が意欲的に学習していると評価している反面あてはまらないが14%と多い。選択の教科や内容により評価の偏りが見られることから、意欲的に学習できる教材や学習内容の検討が必要と考える。また、上の2の項目と同様に半数がよくわからないと答えていることについても、選択教科や内容について分かりやすいオリエンテーションやプリントの作成など行なうことが必要と考える。

### 4. 「学校には気軽に相談できる雰囲気がある」

この設問では、あまりあてはまらない21%、ほとんどあてはまらない7%あわせて28%と3分の1近くが、気軽に相談できないと考えている。この項目は、毎年あまり高くなく、生徒たちにとっての相談相手はやはり友人と答えるところである。ただ、教育相談週間での学習面や進路面での相談については担任との話しがある程度できていると思われる。また、スクールカウンセラー相談については、保護者・生徒のカウンセリングも行なわれ継続しているケースも多く見られる。今後の取組として、さまざまなことについて相談できるという雰囲気を作れるように工夫や設備を整えることが必要である。

## (4) 学校評議員による外部評価

校下3小学校区の少年補導支部長・体育振興会顧問・PTA本部母親委員・「笑顔来た門クラブ」代表・保護司・大学教授の計10名で、年間3回(8月・12月・2月)学校評議員会を開催している。外部評価として、12月の評議員会で前期の評価結果をもとにご意見をいただいた。以下は主な意見である。

- 下鴨中学校の評価の点数化の方法は、Bを±0として、Cを-1、Dを-2としている。課題がはっきりと分かるように、厳しい基準で評価を行なっている点は、少しでも課題を明確化しより良い方向へ変えていこうとする意欲が感じられ、良い評価である。
- 生徒アンケートの評価の中で授業にかかわる部分で、教科によってずいぶん差が見られる。特に英語や数学が他の教科に比べ低いのが気にかかる。教科会等で検討されることが望まれる。

- 「授業の中で、複数で活動する授業が楽しい」の項目の割合が低いのは、各教科でグループ学習が多く取り入れられて実施されていることの証明ではあるが、個人を好むのは今の生徒の特性かもしれないが、グループで活動する良さや楽しさを教えることも大切である。
- 生徒のアンケートや行事のアンケートをみると、生徒の活動の様子がよくわかる。このことから評価の項目についてよく考えられていることがわかる。
- 行事の際の案内などいただき、時間の許す限り参加できるように努めている。授業についても評議員がもっと見ることができるような機会を作って欲しい。また、訪問しやすいように学校評議員を明記した名札をつくってほしい。

## **5. 成果と課題**

各評価者による評価アンケートの集計および分析を行なうことで、課題を明確にすることができた。特に教職員は評価者であると同時に、評価される立場でもあり、評価結果から課題を明確にするための効果的な評価項目を設定する立場でもある。

評価項目を設定する立場としての改善点として、まず今年度は項目の精選を行なった。このことによって、より課題が明確になり、回答に対する検討もしやすくなった。また、生徒・保護者・教職員の三者において、「わかる授業」「あいさつのできる生徒」については、意識して共通の項目を設定した。

その結果、「わかる授業」については、生徒の評価を真ん中にすると、保護者の認識は厳しく、教職員の認識は甘いという結果であった。この結果は、保護者の要求や願いの大きさを表しているといえる。指導者としては、自分自身は十分に努力しているという結果ではあるが、さらに工夫し、わかる授業を目指すことが要求されていると自覚し取り組むことが求められる。

「あいさつのできる生徒」については、生徒の評価が一番悪く、教職員が指導という点で「できている」が高く、さらに保護者は、それ以上に自分の子どもはあいさつができていていると思っという結果になった。個人差はかなりあると思われるが、教職員および保護者の思うほど生徒はできていないと答えている点を課題として、学校では朝の声かけ運動や生徒会のパワーアップ週間でのあいさつ運動に取り組んでいる。

成果としては、実態の把握と課題の認識が評価活動によって目に見えやすくなり、次年度や今後の活動に生かすことができることである。いわゆる「見える化」であり、このことによって明確になった課題について、次の目標の設定につなげ、実際に次の行動をとるというサイクルを意識して学校教育目標達成に向かうという道筋ができてきたことである。

課題としては、評価を具体的に次の目標や取組に反映させるために、各部会や教科会などで今後一層組織的に取り組むことなどが挙げられる。また、教員相互の授業公開により授業力や指導力を高めることや、保護者や学校評議員対象の授業参観などにより、学校への理解と意見をいただく機会を増やすことが必要である。また、教育活動における教職員一人一人の自己分析と自己改革が一番の課題であると認識できるように学校評価を生かすことが重要と思われる。地域・家庭・学校が協働で子どもたちに働きかけること、また、それぞれだけでは欠ける部分について、評価を通じて互いに補てんしあえる関係を築いていくことが大切である。

# 『地域化』をめざした学校評価

## 京都市立北総合支援学校

### 1 学校教育目標

本校では、以下に示すように、教育目標とめざす子ども像やめざす学校像を明らかにし、それを達成するための学校経営計画を設定して取り組んでいる。

#### I 教育目標とめざす子ども像

##### 1 学校教育目標

「一人一人に、自立と社会参加の基礎となる生きる力を育成し、  
みんなとともに、自分らしく生きる子どもの姿を実現する。」

##### 2 めざす子ども像

- 生き生きと生活する子ども
- 自分から（主体性）、自分で（自立）、自分らしく（自己の確立）、みんなとともに（社会性・協同性）、生活する子ども

##### 3 指導の重点（中期的目標）

「人間力の向上をめざし、生活における基礎的な課題解決力及び言語力の育成を図る。」

##### 4 平成19年度 全児童生徒の基礎目標

「自分から、自分らしく、周囲の人に挨拶する子ども」

#### II 学校経営方針

学校経営の基本 … 「成逸地域にねざした北総合支援学校の文化と伝統の創造」

##### 1 めざす学校像

ノーマライゼーションの具現化に向けて、総合育成支援教育をリードする学校

- |                                |                       |
|--------------------------------|-----------------------|
| ① 地域とともに歩む学校                   | … 生涯にわたる支援<br>地域の教育資源 |
| ② 高い専門性を持ち、市民・保護者に信頼される学校      | … 専門性                 |
| ③ 子どもが安心して「生きる力」を育む、安全で楽しい学校   | … 学習、安全               |
| ④ 鋭い人権感覚に基づき、一人一人の子どもが大切にされる学校 | … 人権文化                |
| ⑤ 組織的運営と効率的経営に取り組む学校           | … 経営効率                |

## 2 学校経営の視点

- ① 学校長を中心とし、総務・指導・支援の3部体制を基盤として、経営会議を核とした効率的な組織の構築と経営の充実を図る。
- ② 教職員一人一人が組織の一員としての自覚を持ち、ポジションワークと報告・連絡・相談の徹底を図る。
- ③ 学校の専門性向上と人材育成に向けた学校経営を図る。
- ④ 個別の包括支援プラン運用システムの充実とそれに基づく教育課程の実施・評価・改善を図る。
- ⑤ 相談・支援センターの充実（校内・外の支援，生涯にわたる支援の充実）を図る。
- ⑥ 防災等安全対策（地域連携を含む）の充実を図る。

## 3 中期的課題と方策

- ① 個別の包括支援プランとその運用システムの充実に基づく教育課程の実施・改善
- ② 総務・指導・支援の3部体制による学校経営の充実と地域ぐるみの学校づくり
- ③ 人・もの・環境にやさしい学校づくりを進める
- ④ 相談・支援センターの充実を図り，保護者や地域から信頼される学校づくりを進める

各項目ごとに、総務・指導・支援の各部で、今年度に取り組むべき具体的課題を明らかにし、年間計画を立案した。

## 2 学校評価のねらい

- 学校教育目標の達成に向け、年度当初に策定した学校経営計画の達成状況を把握し、アンケートによる学校評価結果もふまえ、PDCAサイクルによる学校経営の改善をめざす。
- 学校運営協議会と連携し、学校評価結果についての意見を得て、地域ぐるみの教育を進める。

## 3 昨年度の課題を受けた今年度の重点項目

昨年度の調査研究により、本校では、学校評価をよりよく学校経営に反映させていくためのシステムのあり方について検討を行い、より客観的で、信頼性や妥当性の高い学校評価の方法を追究していくことが本校的課題であると捉えた。

そのために、今年度は、学校経営の改善に向け、学校評価の客観性と効率性を高めるために、評価の指標としての学校経営計画を策定し、取組状況の評価を行うこととした。また、高等部自主通学生徒を対象に、生徒による評価を試行し、保護者アンケートとあわせて、外部評価を実施した。

## 4 学校評価年間計画表

月	内 容	備 考
4	○学校経営計画の策定 ○学校評価委員会の構成	学校長 総務担当副教頭, 学年主任, 分教室主任
5	<b>第 1 回学校運営協議会</b>	
	○学校評価についての概要説明, 年間計画作成	学校評価委員会
8	○評価項目の決定 ○学校運営協議会の意見聴取	学校評価委員会
9	<b>第 2 回学校運営協議会</b>	
	○教職員の共通理解 (概要説明) ○学校経営計画中間評価	経営会議, 運営委員会, 職員会議 管理職会
	<b>第 1 回学校評価アンケート実施 (教職員・保護者・児童生徒)</b>	
10	○評価結果集約, 分析と改善策の検討	学校評価委員会, 管理職会, 経営会議
11	○第 1 回学校評価アンケートの公表 ○学校運営協議会の意見聴取	学校評価委員会, 経営会議
12	<b>第 3 回学校運営協議会</b>	
1	<b>第 2 回学校評価アンケート実施 (教職員・保護者・児童生徒)</b>	
2	○評価結果集約, 分析と改善策の検討 ○第 2 回学校評価アンケートの公表 ○学校経営計画達成状況評価	学校評価委員会, 管理職会, 経営会議 学校評価委員会, 経営会議 管理職会
3	○学校運営協議会の意見聴取 ○全体総括	学校評価委員会, 管理職会, 経営会議

## 5 取組の概要

### (1) 学校経営計画の策定

今年度より, 教育目標達成のための具体的な取組となる学校経営計画を策定し公表することとした。学校経営計画の策定の趣旨は次のとおりである。

- ① 教育目標やめざす学校像達成の道筋を明らかにする
  - ② 教職員が学校の取組を共通理解し, 共通の目的に向けて取り組む
  - ③ また, 学校経営計画の策定の過程を通して, 教職員の学校経営への参画を図る
  - ④ 学校の取組を地域や保護者に明らかにし, 学校評価に資するとともに, 学校経営の改善を図る
- また, アンケートによる評価 (教職員・保護者・生徒) を年 2 回実施するとともに, 学校運営協議会の助言, 授業参観等での保護者アンケート, P T A 本部役員からの聞き取り等, 学校評価が多面的かつ計画的に行われるよう配慮した。

## (2) 評価項目の精選

### ① 教職員による自己評価

「教育目標」「教育課程・学習指導」「生徒指導」「進路指導」「研究・研修」「保健管理」「安全管理・危機管理・環境管理」「経営・組織」「情報発信」「服務規律」「センター機能」の11項目47設問とした。

### ② 保護者による評価

「学校の取組」「個別の包括支援プランの作成と実施」「環境管理」の3項目16設問とした。

### ③ 児童生徒による評価

高等部の児童生徒会を中心に、「学校生活について」「学習について」の2項目10設問とした。

## (3) 教職員や保護者の意識調査を行う上での基本的な考え方

- ① 教職員と保護者に共通する内容や関連する内容の質問項目を設定し、意識の共通点や相違点が分析できるようにする。
- ② アンケートは記名方式とし、それぞれの意見について責任を持つと同時に、必要に応じて聞き取り等の追加調査が行えるようにする。
- ③ 自由記述欄を設け、アンケート事項以外にも、意見や考えを述べられるようにする。
- ④ 管理職を評価者から外す。

## 6 アンケート結果の分析と考察

### (1) 選択肢の解釈について

アンケートは4段階尺度法による選択回答方式とした。基準は以下に示す通りである。

A … かなり、または十分できている	B … どちらかと言えばできている
C … どちらかと言えばできていない	D … ほとんど、またはまったくできていない

回答の際は上記の尺度で選択する方法をとったが、それぞれの選択肢について分析・考察の観点として、以下の「達成度の指標」を設定した。

<input type="radio"/> 評価A	… 25%以上	→ 達成
<input type="radio"/> 評価A+B	… 80%以上	→ 概ね達成
<input type="radio"/> 評価C	… 10%以上	→ 課題あり
<input type="radio"/> 評価C+D+E (無回答)	… 20%以上	→ 課題ありの可能性

- ① 上記の指標に基づき、それぞれのアンケート事項を分析し、課題項目をあげる
- ② 課題項目についての、具体的な改善策を検討し、到達目標値を設定する  
(到達目標値：評価A…25%以上、または評価A+B…80%以上)
- ③ 第1回と第2回の結果を比較・検討し、到達目標値に達しなかった項目については、さらに分析・検討を加え、到達目標値を達成するための手立てを提示する

## (2) アンケート結果

教職員を対象としたアンケートからは、以下の結果が得られた。

	達成	概ね達成	課題あり	課題ありの可能性
1回目	11/47 (23%)	37/47 (79%)	22/47 (47%)	11/47 (23%)

「達成」「概ね達成」の評価と、「課題あり」の評価が二分する設問もあるが、アンケート結果から、「A+B」…80%以下、「C+D+E」…20%以上のアンケート事項について課題項目とすることとした。その結果、9項目が課題項目となり、改善策を検討し実施した。

	達成	概ね達成	課題あり	課題ありの可能性
2回目	9/47 (19%)	40/47 (85%)	22/47 (47%)	9/47 (19%)

2回目の結果から、7項目が課題項目となり、1回目・2回目とも到達目標値に達しなかった項目は、6項目であった。それぞれの項目は、前回と比較して一定の効果があったと考える。

保護者を対象としたアンケートからは、以下の結果が得られた。

	達成	概ね達成	課題あり	課題ありの可能性
1回目	14/16 (88%)	14/16 (88%)	3/16 (19%)	2/16 (13%)

2項目が課題項目となり、改善策を検討し実施した。

	達成	概ね達成	課題あり	課題ありの可能性
2回目	16/16 (100%)	16/16 (100%)	3/16 (19%)	0/16 (0%)

2回目の結果から、「課題あり」のアンケート事項数には変化がなかったが、3項目ともポイントは減少しており、全体として「概ね達成」の結果が得られた。

今年度、初めて高等部の生徒を対象にアンケートを実施したが、「学校生活について」「学習について」の項目すべてに「概ね達成」の結果が得られた。

## (3) 課題項目と改善策に関する検討

教職員を対象としたアンケート結果から、以下の改善策を検討し実施した。

評価指標	改善策
教育課程 学習指導	ケース会議は改善されてきたが、話し合うポイントが絞り切れていないために、会議の深まりが見られない。そこで、「みやこ学校創生事業」と連動させ、授業点検等を含めた、コーディネーターの専門性の向上を図る。
生徒指導	性教育、保健指導、児童生徒会活動等、単発的な活動に終わっている面があるので、系統的な指導内容の検討や、児童生徒会組織の整備、年間計画の作成等を行う。
進路指導	進路担当からの情報発信の方法と、各学部における進路指導のあり方の検討等、役割分担の明確化及び位置づけと、それぞれのポジションワークの見直しを図る。
研究・研修	「みやこ学校創生事業」を通して、研究の共通理解を図るとともに、情報を共有するためのシステムを構築する。また、研修の機会を確保し、教職員の意識改革及び専門性の向上を図る。
安全管理 危機管理 環境管理	正確な生活マップを作成し、緊急事態発生時マニュアルを整備するとともに、地域との連携を深め、常に情報を共有する。
組織・経営	学校運営協議会は機能してきたが、情報発信が不十分な面も見られるので、全体への具体的な報告等の情報発信を行う。
センター機能	「育支援センター」は、支援地域には浸透してきており、相談・支援の件数も増加しているが、支援部以外の教職員の理解が不足している。情報発信を行い、センター業務のアピールをする。

保護者を対象としたアンケートの結果から、以下の改善策を検討し実施した。

学校の取組	地域貢献，センター機能等，保護者からは見えにくい部分でもあるので，学校だより，ホームページ等で，学校の取組を，タイムリーな形で，情報発信を行う。
-------	--

全体を通した改善策として、ケース会議等のスムーズな運営のあり方や授業改善を図るなど、「個別の包括支援プランに基づく取組」を具体的な形で推進していくこと、各部署での業務内容や結果に関する報告・連絡・相談の徹底を図る中で3部体制によるポジションワークの明確化やPDCAサイクルの強化を図ること、PTAや地域の関連機関と連携・協働して、ホームページ、学校だより等で双方向の情報発信や吸収を行い、地域や保護者に対して説明責任を果たし、同意や理解を得ることを実践していく。

#### (4) 学校運営協議会からの提言

学校運営協議会で次の点について議論した。

- ① 学校評価について、年2回アンケートを実施しているが、学校経営計画策定の時期との関係上、評価の時期（点検スケジュール）等については適切か。
- ② 学校評価アンケートは、満足度調査・意識調査になってしまうが、改善策はどのように考えればよいのか。

その結果、学校運営協議会からは、以下のような意見をいただいた。

- ① 学校経営計画の進行を一覧表にすると進捗状況がわかりやすい。
- ② 地域を活用した学習を、今後どのように、個別の包括支援プランに基づく授業の中で位置づけて行くのが重要である。
- ③ 地域と総合支援学校との連携のあり方は、まだまだ手探りの状態であるので、あわてて結論を出す必要はない。目的の合致したところでより緊密な関係を築き上げることができる。
- ④ 学校評価の方法については、意識調査的なものから今後は具体的に評価できるような行動目標の設定や達成基準の明確化を図っていくようにした方が客観的な評価になる。

## 7 成果と課題

### (1) 学校経営計画

今年度、初めて策定したが、全体的には、概ね予定通りに進行している。各領域で項目をあげたが、項目相互の関連を捉え、より効率的な学校運営にしていくために、全体で調整する必要がある。

また、計画は、ほぼスケジュール通りになっているが、研修等を行ったことの上に、その成果をどのように評価するかを考える必要がある。

学校経営計画と学校評価との連動を具体的な形で示すことにより、意識調査から、具体的な行動目標の設定や達成基準が明確になっていき、客観的な評価ができ、よりよい学校運営につながると考える。



## (2) アンケート結果

アンケートの結果から、取組に対する評価としては、学校総体としては、概ね良好であると考え。今後も現在の取組を充実させ、「A」の割合を高める取組を推進していく必要がある。また、「情報の流れの不十分さ」については、従来からの懸案事項であり、「情報発信・吸収」の方法について、検討していく必要がある。

そのために具体的な改善策として、次の点について取り組むこととした。

### ① 個別の包括支援プランに基づく取組を、具体的な形でさらに推進する

「授業改善・授業研究の充実」「教育課程の整理と充実」「学校組織改革」の取組を進めていく。

そのために、ケース会議等のスムーズな運営のあり方、授業改善及び実践をより一層推進する。

### ② 学校評価アンケート項目の検討

アンケート方式では、意識調査の要素があるために、学校経営や教育活動に関する様々な取組に対して、目標を設定する際に、具体的な行動目標、達成基準を明確にし、内外問わず、客観的な目標設定を行うようにする必要がある。

### ③ 地域・保護者に、説明責任を果たす

P T A及び地域等とも連携・協働して、ホームページ、学校だより等で、双方向の情報発信・吸収を行っていく。

### ④ 学校運営協議会の活用

学校運営協議会で、学校経営計画と連動させ、P D C Aサイクルにより、学校評価そのものを、よりよく学校運営に反映させていくためのシステムのあり方を検討する。

## 【参考資料：学校経営計画】

項目	具体的事項	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
(1)-① 専門性の向上・質の高い授業・地域で生きる力を育てる	授業改善に向けた授業点検を行う		(小) 授業点検 研究授業週間				(中・高) 授業点検 研究授業週間				研究発表会 (1/25)		
	ワークスタディの評価の視点を見直す												
	各学部で地域と連携したユニットを編制する			打合 (SJC活用) 対象決定・目標確認			実践・評価 ①前期評価			実践・評価 ②後期評価		まとめ	
(1)-② 研修の構造化・体制の整備と個々の研修の充実	研修ニーズに対応できるように、分野別選択研修・学習会を実施する	アンケート	アンケート	実施計画	研修	研修	実践	実践	実践	検証	まとめ	発表	
	教職員評価における自己研修計画と本校の研修計画の連動を図る	自己目標申告書作成・提出 当初面談	評価表別紙作成				自己目標申告書 修正・提出 中間面談	評価表別紙作成		自己目標申告書修正・提出 自己評価表作成 最終面談			
(1)-③ 全校研究の充実と研究成果の発信による評価・改善	「みやこ学校創生事業」教育課程研究の成果を発表する	教P	教P	教P	教P	教P	研究会	授業 検討	原稿 作成	原稿 完成	研究発表会 (1/25)		教P
	講師を招いての授業に関する研究会を年3回以上実施する	中・高 ①	研究授業週間		小 ①		中・高 ②		小 ②		小③ 中・高③ 記念講演		
(2)-② 学校運営協議会や学校評価等により、地域と結ばれた教育・学校運営の充実改善を図る	学校評価を年2回実施し、学校運営協議会で意見を得る	評価委① 運営①		項目 検討		評価 委②	運営② アンケート実施		結果公表 運営③ 評価委③		アンケート実施 結果公表		全体 総括
	校内研修のあり方について課題を整理し研修の構造化を図る	計画	保健	言語 保健	人権 感研	人権	公開 研修	公開 研修 保健 感研	言語 感研	進路		感研	

# 共に進めましょう！ 京都市の「学校評価」

キーワードは「自らを振り返り」、「互いに高め合う」です！

京都市の学校評価は、学校・家庭・地域が相互に高め合うことを目指します。

- 学校評価は、
  - ①教職員による自己評価
  - ②児童生徒による評価
  - ③保護者・地域の皆さんによる外部評価からなります。これらの「評価」を通して、よりよい学校づくりを行います。
- 「評価」は、教職員、児童・生徒、保護者・地域の方々が、自らの行動を振り返る機会でもあります。「評価」を通じて、一方的な要求だけではなく、足りないところを補い合い、学校・家庭・地域が相互に高め合うことを目指します。
- 学校は評価結果を、必ず保護者・地域の皆様に公表するとともに、今後どのような点を充実・改善すべきかを皆さんにお示しします。
- 評価の信頼性・客観性を高めるため、教育委員会に設置している学識経験者等を含めた「評価専門委員会」が、「学校評価システムが効果的に機能しているか」について検証します。

## 地域ぐるみの教育の推進

子どもを育てるためには、「学校が家庭・地域を高め、家庭・地域が学校を高める双方向の信頼関係」の構築が重要です。そのためには、学校・家庭・地域が次のことを「共有」することが必要です。

- 1 子どもの情報や課題を「共有」 → 学校だよりやHPを見てください。また、自由参観などの機会に、学校に足を運んでください。
- 2 課題解決に向けた行動を「共有」 → 課題解決に向けて、学校教育に積極的に参画してください。
- 3 評価の「共有」 → 学校が公表する評価結果から分かる成果や課題を受け、次の行動につなげましょう。

## 教育活動充実のための学校評価 《年2回以上実施》

### 学校の教職員による自己評価

授業改善・指導の充実など図るため、自らの教育活動を点検します。

- 子どもの良いところを積極的に見つけようと努力していたか。
- 授業での発問、指示、説明などを工夫していたか。丁寧な板書を行っていたか。
- 子どもの安全や健康に対する目配り・心配りを十分に行えたか。 など

### 児童生徒による評価

自分自身を振り返るとともに、授業の改善につなげるための授業評価を行います。

- 先生や友達の話をきちんと聞けましたか？
- 自分から進んで本を読んでいますか？
- 先生の授業はよく分かりますか？
- 先生は困っていることについて、一緒に考えてくれますか？ など

子ども自身の振り返り

授業改善に生かす評価

### 保護者・地域の皆さんによる外部評価

学校への評価や家庭・地域の役割を振り返っていただく評価を行います。

- 学校からの様々な説明は分かりやすいですか？
- 子どもさんは楽しそうに学校に通っていますか？
- 先生は分かりやすい授業をしていますか？
- 学校のことについて家庭で話をしていますか？
- 学校から配られるプリントなどは必ず見えていますか？
- PTA活動や地域の行事に積極的に参加していますか？ など

学校への評価

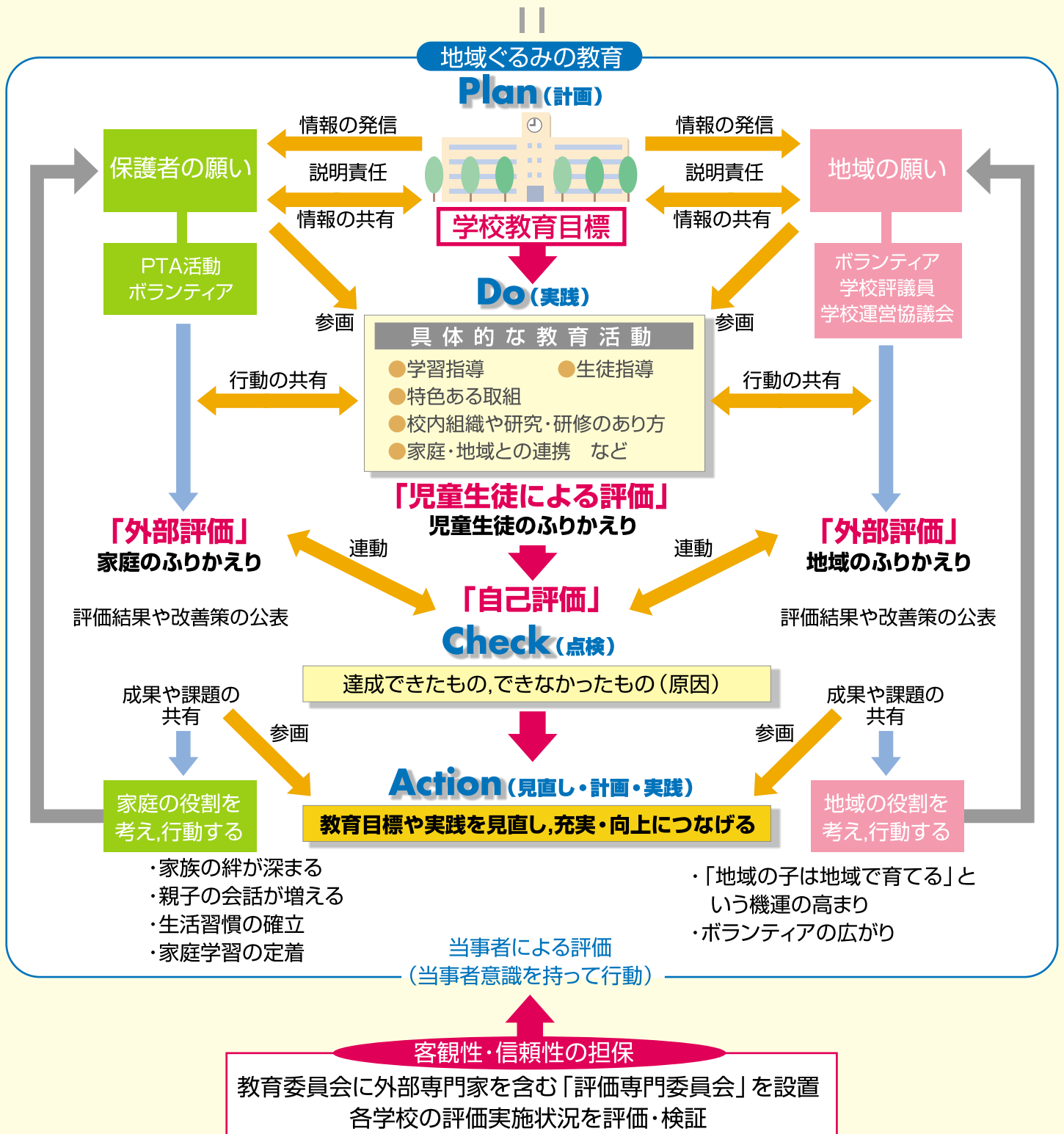
家庭・地域の振り返り

# 京都市の学校評価システム

## 学校・家庭・地域が「育てたい子ども像」と「評価」を共有

—情報・課題意識の共有から行動の共有へ。そして評価を共有し、共に教育力を高めるシステムに—

内外に開かれた学校づくり,説明責任(自由参観・学校だよりの地域回覧・ホームページ)等



学校評価から学校・家庭・地域を含めた子どもの学びと育ち全体の評価システムへの進化

## 学校を核に地域コミュニティを再生

